

C型肝炎ウイルス駆除後の肝発癌・再発の機序に関する検討

研究分担者 鳥村拓司

研究要旨

我々は、平成28年度から30年度における「肝炎ウイルス感染状況と感染後の長期経過に関する研究」においてC型肝炎ウイルス(HCV)駆除後の肝発癌、肝がん再発に関する疫学調査を行った。まず、平成28年度は、インターフェロン治療にて著効後、肝細胞癌を発症した症例についての特徴に関し検討を行った。その結果、治療後に肝発癌が認められたのは669例中19例であり、著効後の発癌には高齢、線維化進展例、男性の因子も重要であるが、若年者での発癌は肥満、糖尿病、肝機能異常なども重要な因子であると考えられた。平成29年度は、Direct acting antivirals (DAAs)治療にて、HCVが駆除された後に肝細胞癌を発症した症例の頻度とその背景因子に関して多施設間で後ろ向きに解析した(SAKS Study)。DAAsにてHCVが駆除されたのちの発がん率は、肝硬変症例では年間発癌率が4.8%、慢性肝炎では1.0%であり、肝発癌に關与する因子は高齢、SVR24時点でのAFP高値、SVR24時点での血小板低値であった。本年度は、DAAs治療によりHCVが駆除されたのちの経時的な肝発がん率と、肝癌根治後にDAAsにてHCVが駆除されたのちの肝がん再発率の多施設共同により前向き及び後ろ向きに検討した。さらに、肝発がん及び肝がん再発に寄与する因子を検討した。後ろ向き研究では登録された2,509症例のうちDAAs治療前に肝細胞癌を発症していない2,185例から経過観察中に56例(2.6%)が発がんした。このうち肝硬変症例では年間発癌率が6.0%、慢性肝炎では1.5%であった。肝発癌に關与する因子は高齢、肝硬変症、SVR24時点でのAFP高値、SVR24時点でのr-GTP高値であった。また、肝癌根治後にDAAsにてSVRとなった324例からは127例(39.2%)に肝がんの再発を認めた。前向き研究では、九州の15施設からSVR12を達成した3,011例を登録した。DAAs治療前に肝がんの既往のない2,552例のDAAs治療後の1,2,3年の発がん率は各々1.3%、2.9%、4.9%であった。肝発癌に關与する因子は高齢、FIB-4高値、r-GTP高値であり、年齢62歳以上、r-GTP44以上、FIB-4 index 4.6以上すべてを満たす症例の1,2,3年の発がん率は、各々7.9%、17.5%、25.0%であった。一方、それ以外の症例の1,2,3年の発がん率は、各々1.1%、2.4%、4.1%であった。肝癌根治後にDAAsにてSVRとなった459例からの肝がん再発は47.3%に観察され、1,2,3年の発がん率は各々27.1%、43.4%、50.8%であった。肝がん再発に寄与する因子は、AFP5.4 ng/ml以上、DAAs前の肝がんの治療回数であった。以上3年間の検討からDAAs治療にてHCVが駆除された症例からも、一定頻度で肝発がんが起り、発がんの危険因子は男性、高齢、肝線維化の進展などが挙げられた。また、DAAs後の肝発がんの危険因子を加味することでDAAs治療後の肝がん早期発見のサーベイランスシステムの構築が可能であると考えられた。一方、肝癌根治術後にDAAs治療を行いHCVが駆除されたのちの肝がん再発は、予想以上に高頻度に起り、DAAs治療が肝がんの再発を抑制するか否かはもうしばらくの検討が必要と思われた。

A. 研究目的

肝細胞癌の早期発見に関し、本邦では諸外国と異なり、C型肝炎ウイルス(HCV)やB型肝炎ウイルス由来の慢性肝疾患症例や肝硬変症例に対し、定期的な腹部超音波検査や腫瘍マーカーなどによるスクリーニングシステムが確立しており、その結果、欧米で

は肝細胞癌症例の約70%が発見時にすでに根治術が不能な状況であるのに対し、本邦では逆に約70%が根治術可能な段階で診断されており、このことが本邦における肝細胞癌の予後が海外に比べ良好となっている大きな要因と考えられる。

肝細胞癌の最大の原因であるHCV感染の駆除は、

以前は、インターフェロンによる治療が行われてきたが、肝硬変症に使用できないことや副作用の多さ、さらにウイルスの駆除(SVR)の頻度の低さが問題で、使用可能な症例は限られていた。しかし、近年 Direct-acting antivirals (DAAs)の導入により、約 97%と極めて高率にしかも短期間に副作用も少なく駆除できる時代となった。このため、今後 HCV に起因する肝細胞癌も減少していくことが想像される。しかし、一方ではインターフェロン治療による C 型肝炎ウイルス駆除と同様にウイルス駆除後に発癌する症例が存在することも事実である。今後、HCV 陽性者のなかで DAAs 治療により HCV が陰性化した症例からの肝発癌は確実に一定頻度で発生するものと予想される。

一定頻度レベルでの発生が予想される DAAs 治療で HCV が陰性化した症例からの肝発癌の頻度、特徴が明らかになれば、従来の肝細胞癌早期発見のためのサーベイランスシステムにおいて、発がん頻度の少ない症例の観察期間を延長したり、ほとんど発がんの危険性のない症例をサーベイランスから外したりすることも可能となるかもしれない。このことは、医療経済の面から考えても有用であると考えられる。

よって、平成 28 年度から 30 年度にかけて、インターフェロン及び DAAs 治療にて、HCV が駆除された後に肝細胞癌を発症した症例の頻度とその危険因子について多施設間で後ろ向き及び前向きに検討し、危険因子による肝癌の発生率の層別化が可能か否かを検討した。さらに、肝細胞癌の根治術後に DAAs を導入し HCV が駆除されたのちの肝がん再発率とその危険因子に関しても検討した。

B. 研究方法

1. インターフェロン治療後での HCV 駆除後の肝発癌に関する検討

a. 症例

当院にて、インターフェロン治療を行った C 型慢性肝疾患患者のうち SVR が得られた 669 例である。インターフェロン治療前に肝癌治療歴のある例と治療後 1 年以内発癌例は除外した。

b. 背景因子の検討

肝発癌率、発癌症例の性別、年齢、肝線維化の程度、糖尿病の有無、ALT, r-GTP, AFP の異常と肝発癌との関係を検討した。

c. 倫理面での配慮

久留米大学の倫理委員会の承認を受けて検討を行った。

2. DAAs 治療による HCV 駆除後の肝発癌に関する多施設による後ろ向き検討(SAKS Study)

a. 症例

久留米大学消化器内科、佐賀大学医療支援学講座江口有一郎教授、産業医科大学第三内科原田大教授との多施設共同研究(SAKS study)にて各々の大学病院と関連の 60 施設にて DAAs 治療を行った C 型慢性肝疾患患者 4,040 例のうち SVR12 が得られ、その後の追跡調査が可能であった 2,509 例を対象とした。

b. 検討項目

肝発癌率、発癌症例の性別、年齢、4 型コラーゲン値、FIB4 index, APRI、プロトロンビン時間、血小板値、アルブミン値、r-GTP, AFP, PIVKA2 と肝発癌との関係を単変量解析、多変量解析にて検討した。なお、肝硬変所の診断は主治医の判断とした。

c. 倫理面での配慮

久留米大学の倫理委員会の承認を受けて検討を行った。久留米大学倫理委員会承認番号：14178

3. DAAs 治療により SVR を示した C 型慢性肝疾患患者における肝発がんの実態を明らかにするための多施設共同前向き研究

a. 症例

九州の 15 施設：大分大学(清家正隆)、鹿児島大学(井戸章雄、馬渡誠一)、熊本大学(佐々木裕、吉丸洋子)、九州医療センター・消化器科/外科(中牟田誠、樋口野日斗/高見裕子)、佐賀大学(江口雄一郎、大枝敏)、産業医科大学(原田大、本間雄一)、長崎医療センター(八橋弘、橋元悟)、長崎大学(中尾一彦、三馬聡)、福岡赤十字病院(早田哲郎)、福岡大学(向坂彰太郎、釈迦堂敏)、福岡徳洲会病院(松本修一)、宮崎大学(永田賢治)、琉球大学(前城達次)、久留米大学(古賀浩徳、井出達也、中野聖仁、鳥村拓司)(敬称略)から DAAs 治療を行い svr12 を得られた 3,012 例(DAAs 治療前に肝がんなし：2,552 例、肝癌根治後に DAAs 施行：459 例)を登録した。

b. 検討項目

DAAs 治療後の発がん率、肝がん再発率、発がんおよび再発に寄与する因子の短変量、多変量解析による抽出。抽出された危険因子による発がん率、再発率の層別化。

c. 倫理面での配慮

久留米大学の倫理委員会の承認を受けて検討を行った。久留米大学倫理委員会承認番号：16240、UMIN-CTR 登録：UMIN000027988

C. 研究成果

1. インターフェロン治療後での HCV 駆除後の肝発癌に関する検討

インターフェロン療法を施行した症例のうち、HCV が駆除された 669 例の中から肝細胞癌の発生を認めたものは、19 例(2.8%) であった。19 症例の内訳は、男性が 12 例、女性が 7 例であった。65 歳以上が 8 例(男性:4 例,女性:4 例)、65 歳以下が 11 例(男性:7 例,女性:4 例)で、高齢者では女性からの発癌が多いようであった。背景肝病変に関しては、インターフェロン療法開始時の肝生検において、F3 以上の症例が 10 例であり、このうち 5 例が肝硬変症例であった。肝細胞癌治療として肝切除を行い、インターフェロン療法開始時との背景肝が比較可能であった 7 例の検討では、改善が 3 例、不変が 1 例、増悪が 3 例であり、この 7 例のうち 65 歳以上の高齢者では 4 例中 3 例で改善しているのに対し、65 歳未満で改善例はなかった。65 歳以上においては BMI が 25 以上の症例は 1 例もなく、糖尿病合併例が 2 例,アルコール多飲者が 1 例のみであった。ALT や r-GTP の異常を認める症例はなかった。症例ごとに見てみると、BMI, 糖尿病、アルコール多飲、ALT、r-GTP 異常のうち 2 項目を有している症例は 1 例、1 項目を有している症例 1 例で、他の 6 症例は何れの背景因子も有していなかった。65 歳以上の高齢者においては、BMI, 糖尿病、アルコール多飲、ALT、r-GTP 異常を伴う症例が少なく、インターフェロン療法による HCV 駆除後の肝発癌に、高齢という因子が強く関与していることが示唆された。一方、65 歳以下の肝発癌症例に関しては、BMI が 25 以上の症例が 8 例、糖尿病合併例が 7 例,アルコール多飲者が 3 例,ALT 異常が 4 例、r-GTP 異常が 7 例であった。症例ごとに見てみると、5 個の背景因子のうち 4 項目を有している症例が 4 例、3 項目が 4 例、いずれも有していないのが 2 例であった。以上の結果から、65 歳以下における HCV 駆除後の肝発癌には、生活習慣に伴う肝発癌因子が複数関与して、HCV 駆除後も肝線維化が進行し発癌に繋がることが考えられた。

2. DAAs 治療による HCV 駆除後の肝発癌に関する後ろ向き検討(SAKS Study)

SAKS study に参加した各施設で DAAs を用いて治療を行った症例 4,040 例で著効(SVR12)が確認され、その後の経過観察が可能であった症例 2,509 例のうち DAAs による治療以前に肝細胞癌の発症を認め治療歴のある症例が 324 例で、DAAs 治療以前に肝細胞癌の既往のない症例は 2,185 例であった。

1) DAAs 治療後の肝発癌に関する検討

肝硬変症と診断された 307 例からの発癌は、27 例であり、1,2 年累積発癌率は各々、6.0%、13.7%と高値であった。一方、慢性肝炎と診断された 1,878 例からの発癌は 29 例であり、1,2 年累積発癌率は各々、1.5%、3.4%であり有意に肝硬変症例からの肝発癌率が高かった。

2) DAAs による治療により SVR となった症例からの肝発癌に関する因子の解析

肝発癌の背景因子に関しては、単変量、多変量で解析した結果、肝発癌の危険因子は高齢であること(発癌症例: 69.9±7.3 歳, 非発癌例: 65.9±11.1 歳)、肝硬変患者炎症例であること、治療終了後 24 週目の AFP 高値(発癌症例:9.9±17.3, 非発癌例:4.4±6.8)、治療終了後 24 週目の r-GTP 高値(発癌症例:36.8±27.8, 非発癌例:26.6±29.9)が抽出された。

3) DAAs 治療前に肝細胞癌の治療歴がある症例の肝癌再発率の検討

肝細胞癌に対する治療後に DAA 治療が導入され SVR になった症例は 324 例であり、平均観察期間 1.2±0.6 年間の観察の間に肝細胞癌が再発した症例は 127 例(39.2%)であった。

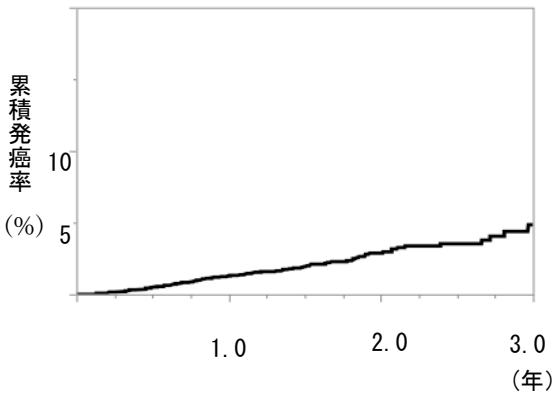
3. DAAs 治療により SVR を示した C 型慢性肝疾患患者における肝発癌の実態を明らかにするための多施設共同前向き研究

15 施設から登録されたのは、肝細胞癌の既往がなく DAAs にて SVR12 が得られた 2,552 例、肝細胞癌の根治術後に DAAs 治療を行い SVR12 が得られた症例 459 例の計 3,011 例であった。

1) DAAs 治療後の肝発癌に関する検討

平均観察期間 22.6±8.3 か月の間に肝細胞癌の既往がなく DAAs にて SVR12 が得られた 2,552 例のうち 70 例(2.7%)に発癌が認められた。1,2,3 年の累積発癌率は各々 1.3%、2.9%、4.9%であった(図.1)。

図.1 DAAs 後の肝発がん率



2) DAAs による治療により SVR となった症例からの肝発癌に関する因子の解析

肝発癌の背景因子に関しては、単変量、多変量で解析した結果、肝発癌の危険因子は高齢であること(多変量解析法 Hazard ratio(HR);1.51)、男性(HR;2.40)、r-GTP 高値(HR;1.04)、FIB-4 index (HR; 1.12)が抽出された。

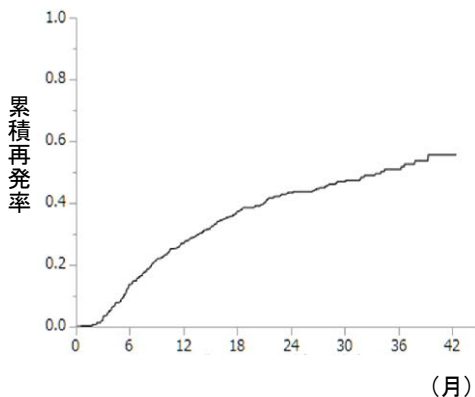
3) DAAs 治療後の肝発がん率の層別化

ROC により 2)で抽出された cutoff 値を以下のように設定した。年齢:62 歳、r-GTP:44 IU/L、FIB-4 index:4.6。これら 3 因子が cutoff 値以上を取り、男性である症例の DAAs 治療後の 1,2,3 年の発がん率は各々 7.9%, 17.5%, 25.0%であった。一方、それ以外の症例では DAAs 治療後の 1,2,3 年の累積発がん率は各々 1.1%, 2.4%, 4.1%であり、両群間に有意差を認めた。

4) DAAs 治療前に肝細胞癌の根治治療歴がある症例の肝癌再発率の検討

肝細胞癌に対する根治術後に DAA 治療が導入され SVR になった症例は 459 例が登録されこのうち平均観察期間 29.4±6.8 か月の間に肝細胞癌が再発した症例は 217 例(47.3%)であった。これらの症例の 1,2,3 年の累積再発率は各々 27.1%, 43.4%, 50.8%であった(図.2)。

図.2 肝癌根治後に DAAs を導入した症例の再発率



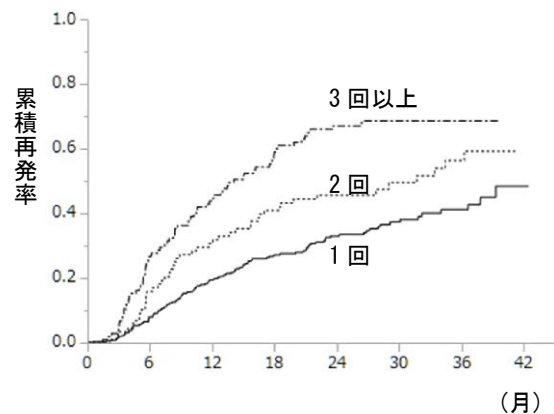
5) 肝癌根治術後の DAAs 治療による SVR 後の肝がん再発に関する因子の解析

肝がん再発の背景因子に関しては、単変量、多変量で解析した結果、DAAs 治療前の AFP 高値(HR;1.02)、DAAs 前の肝がんの根治治療の回数が多いこと(2 回:HR;1.60,3 回:2.61)が抽出された。

6) 肝癌根治術後の DAAs 治療による SVR 後の肝癌再発率の層別化

単変量及び多変量解析で抽出された肝がん再発に寄与する因子のうち、DAAs 治療前の AFP 値の cutoff 値を 5.4 ng/mL とすると、AFP 値 5.4 ng/mL 以上の症例では、1,2,3 年の肝がん累積再発率は各々 30.0%, 48.1%, 53.2%であった。一方、AFP 値 5.4 ng/mL 以下の症例では、1,2,3 年の肝がん累積再発率は各々 18.9%, 31.6%, 45.4%であった。次に、DAAs 治療前に施行された肝がんの根治治療の回数で層別化すると、根治治療が 1 回の場合では、1,2,3 年の肝がん累積再発率は各々 19.4%, 33.0%, 42.0%、根治術が 2 回の場合は、1,2,3 年の肝がん累積再発率は各々 30.7%, 45.6%, 56.4%、根治術が 3 回以上の場合には、1,2,3 年の肝がん累積再発率は各々 43.8%, 67.1%, 68.6%であった(図.3)。

図.3 肝癌根治後に DAAs を導入した症例の再発率の層別化



D. 考察

2016 年度の検討において、インターフェロン治療後に肝発癌が認められたのは HCV が駆除された 669 例中 19 例(2.8%)であった。肝発癌に関する因子として、65 歳未満では、肥満、糖尿病、肝機能異常を多く認めた。治療前の肝生検と比較できた 7 例のうち 65 歳以上の高齢者では 4 例中 3 例で改善している

のに対し、65歳未満で改善例はなかった。以上の結果から、インターフェロン著効後の肝発癌には高齢、線維化進展例、男性の因子も重要であるが、若年者での発癌は特に、肥満、糖尿病、アルコール摂取、肝機能異常なども重要な因子であると考えられた。よって、インターフェロン療法にてHCVが駆除されるまでに何十年もの間障害を受け続けてきた肝細胞は、HCV消失により、ウイルスに関連した機序での肝細胞障害はなくなるものの、その後の加齢、肥満、糖尿病、アルコール摂取などによる障害が複合して加わることで肝発癌に至る可能性が示唆された。

また、DAAs治療によりHCVが駆除された症例からの肝発がんや、肝細胞癌の根治術を行った後にDAAs治療を行い、SVRになった症例からの肝細胞癌の再発もある一定の頻度で起こることが明らかになってきている。2017-2018年度の我々の検討のうち、多施設後ろ向き検討(SAKS Study)において、肝硬変症と診断された症例からの1,2年発がん率は各々、6.0%、13.7%と高値であった。一方、慢性肝炎と診断された症例からの1,2年累積発がん率は各々、1.5%、3.4%であり有意に肝硬変症例からの肝発癌率が高かった。発がんに関与する因子は高齢、肝硬変症例、DAAs治療後24週目のr-GTP、AFP高値が挙げられた。多施設前向き研究においては、DAAs治療後の1,2,3年の発がん率は各々1.3%、2.9%、4.9%であり、発がんに関与する因子は男性、高齢、r-GTP高値、FIB-4 index高値が挙げられた。さらに、男性、62歳、r-GTP44、FIB-4 index 4.6で分けると、発がん率が層別化された。

今後ますますHCV抗体陽性、HCV RNA陰性の症例からの肝発癌の割合が増えると、我々が今日まで施行し、根治術可能な時点で約70%の肝細胞癌症例が診断可能といった効果を上げていた本邦の肝細胞癌の早期発見のためのサーベイランスシステムにHCV抗体陽性かつHCV RNA陽性症例に加えて、HCV抗体陽性かつHCV RNA陰性症例も同様に組み入れることは、医療経済の面から考えると非経済的である。今回の検討において、FIB-4 indexに加え、高齢、男性、r-GTP高値で肝発がん率が層別化されたことより今後さらに症例を重ね、観察期間を延ばすことでDAAs治療後の肝発がん率を予測することが可能となり、新たにDAAsによりHCVが駆除された症例に対する肝細胞癌早期発見のための新たなサーベイランスシステムを構築することが可能であると考えられた。

一方、肝癌根治術後の肝がん再発に関しては、再発に関与する因子によりある程度の肝がん再発率の層別化は可能であったが、低危険群でも効率に肝がんの再発が認められたため現時点では肝細胞がん再発の新たなサーベイランスシステムを構築することは可能とは言い難い。たとえDAAsでSVRになっても慎重な経過観察が必要であると思われる。

E. 結論

インターフェロン療法によるHCV駆除後の肝細胞癌発生に関しては、高齢、糖尿病、肥満、アルコール摂取などの因子が複数絡み合っただけで発癌に至ることが示唆された。また、DAAsによるHCV駆除後の肝発がんに関与する因子は、男性、高齢、r-GTP高値、FIB-4 index高値が挙げられた。今後これらの危険因子を参考にして発がんの危険群の設定や、DAAsによりHCVが駆除された症例に対する肝細胞癌早期発見のための新たなサーベイランスシステムを構築することが可能であると考えられた。

F. 研究危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Kawaguchi T, Suetsugu T, Ogata S, Imanaga M, Ishii K, Esaki N, Sugimoto M, Otsuayama J, Nagamatsu A, Taniguchi E, Itou M, Oriishi T, Iwasaki S, Miura H, Torimura T. An association between dietary habits and traffic accidents in patients with chronic liver disease: A data-mining analysis. *Biomedical Reports*. 2016, 4: 615-622.
- 2) Okamura S, Sumie S, Tonan T, Nakano M, Satani M, Shimose S, Shirono T, Iwamoto H, Aino H, Niizeki T, Tajiri N, Kuromatsu R, Okuda K, Nakashima O, Torimura T. Diffusion-weighted magnetic resonance imaging predicts malignant potential in small hepatocellular carcinoma. *Digestive and Liver Disease*. 2016, 48: 945-952.
- 3) Ueyama M, Nishida N, Korenaga M, Korenaga K, Kumagai E, Yanai H, Adachi H, Katsuyama H, Moriyama S, Hamasaki H, Sako A, Sugiyama M, Aoki Y, Imamura M, Murata K, Masaki N, Kawaguchi T, Torimura T, Hyogo H, Aikata H, Ito K, Sumida Y, Kanazawa A, Watada H, Okamoto K, Honda K, Kon K, Kanto T, Mizokami M, Watanabe S. The impact of PNPLA3 and JAZF1 on hepatocellular carcinoma in non-viral hepatitis patients with type 2 diabetes mellitus. *Journal of Gastroenterology*. 2016, 51: 370-379.
- 4) Hisamochi A, Kage M, Ide T, Arinaga-Hino T, Amano

- K, Kuwahara R, Ogata K, Miyajima I, Kumashiro R, Sata M, [Torimura T](#). An analysis of drug-induced liver injury, which showed histological findings similar to autoimmune hepatitis. *Journal of Gastroenterology*. 2016, 51: 597-607.
- 5) Aino H, Sumie S, Niizeki T, Kuromatsu R, Tajiri N, Nakano M, Satani M, Okamura S, Shimose S, Miyahara K, [Torimura T](#). The systemic inflammatory response as a prognostic factor for advanced hepatocellular carcinoma with extrahepatic metastasis. *Molecular and Clinical Oncology*. 2016, 5: 83-88.
- 6) Nakamura T, Koga H, Iwamoto H, Tsutsumi V, Imamura Y, Naitou M, Masuda A, Ikezono Y, Abe M, Wada F, Sakaue T, Ueno T, Ii M, Alev C, Kawamoto A, Asahara T, [Torimura T](#). Ex vivo expansion of circulating CD34+ cells enhances the regenerative effect on rat liver cirrhosis. *Molecular Therapy - Methods & Clinical Development*. 2016, 3: 16025(page 1-13).
- 7) [Torimura T](#), Iwamoto H, Nakamura T, Abe M, Ikezono Y, Wada F, Sakaue T, Masuda H, Hashimoto O, Koga H, Ueno T, Yano H. Antiangiogenic and antitumor activities of aflibercept, a soluble VEGF receptor-1 and -2, in a mouse model of hepatocellular carcinoma. *Neoplasia*. 2016, 18: 413-424.
- 8) Nakano M, Tanaka M, Kuromatsu R, Nagamatsu H, Satani M, Niizeki T, Okamura S, Iwamoto H, Shimose S, Shirono T, Noda Y, Koga H, [Torimura T](#). Alternative treatments in advanced hepatocellular carcinoma patients with progressive disease after sorafenib treatment: a prospective multicenter cohort study. *Oncotarget*. 2016,7:64400-64409.
- 9) Oide T, Eguchi Y, Harada M, Ishii K, Morita M, Morita Y, Sugiyama G, Fukushima H, Yano Y, Noguchi K, Nakamura H, Hisatomi J, Kumemura H, Shirachi M, Iwane S, Okada M, Honma Y, Arinaga-Hino T, Miyajima I, Ogata K, Kuwahara R, Amano K, Kawaguchi T, Kuromatsu R, [Torimura T](#); DAAs Multicenter Study Group. Evaluation of resistance-associated substitutions in NS5A using direct sequence and cycleave method and treatment outcome with Daclatasvir and Asunaprevir for chronic hepatitis C genotype 1. *PLoS One*. 2016, 11: e0163884(page 1-11).
- 10) Shoji H, Yoshio S, Mano Y, Kumagai E, Sugiyama M, Korenaga M, Arai T, Itokawa N, Atsukawa M, Aikata H, Hyogo H, Chayama K, Ohashi T, Ito K, Yoneda M, Nozaki Y, Kawaguchi T, [Torimura T](#), Abe M, Hiasa Y, Fukai M, Kamiyama T, Taketomi A, Mizokami M, Kanto T. Interleukin-34 as a fibroblast-derived marker of liver fibrosis in patients with non-alcoholic fatty liver disease. *Scientific Reports*. 2016, 6: 28814(page 1-11).
- 11) Kumagai E, Mano Y, Yoshio S, Shoji H, Sugiyama M, Korenaga M, Ishida T, Arai T, Itokawa N, Atsukawa M, Hyogo H, Chayama K, Ohashi T, Ito K, Yoneda M, Kawaguchi T, [Torimura T](#), Nozaki Y, Watanabe S, Mizokami M, Kanto T. Serum YKL-40 as a marker of liver fibrosis in patients with non-alcoholic fatty liver disease. *Scientific Reports*. 2016, 6: 35282(page 1-10).
- 12) Yoshida T, Akiba J, Matsui T, Nakamura K, Hisamoto T, Abe M, Ikezono Y, Wada F, Iwamoto H, Nakamura T, Koga H, Yamagishi SI, [Torimura T](#). Pigment Epithelium-Derived Factor (PEDF) Prevents Hepatic Fat Storage Inflammation, and Fibrosis in Dietary Steatohepatitis of Mice. *Digestive Diseases and Sciences*. 2017, 62: 1527-1536.
- 13) Koya S, Kawaguchi T, Hashida R, Goto E, Matsuse H, Saito H, Hirota K, Taira R, Matsushita Y, Imanaga M, Nagamatsu A, Shirono T, Shimose S, Iwamoto H, Niizeki T, Kuromatsu R, Miura H, Shiba N, [Torimura T](#). Effects of in-hospital exercise on liver function, physical ability, and muscle mass during treatment of hepatoma in patients with chronic liver disease. *Hepatology Research*. 2017, 47: E22-E34.
- 14) Kawaguchi T, Ueno T, Nogata Y, Hayakawa M, Koga H, [Torimura T](#). Wheat-bran autolytic peptides containing a branched-chain amino acid attenuate non-alcoholic steatohepatitis via the suppression of oxidative stress and the upregulation of AMPK/ACC in high-fat diet-fed mice. *International Journal of Molecular Medicine*. 2017, 39: 407-414.
- 15) Nguyen Canh H, Harada K, Ouchi H, Sato Y, Tsuneyama K, Kage M, Nakano M, Yoshizawa K, Takahashi A, Abe M, Kang JH, Koike K, Inui A, Fujisawa T, Takaki A, Arinaga-Hino T, [Torimura T](#), Suzuki Y, Fujiwara K, Zeniya M, Ohira H, Tanaka A, Takikawa H, Intractable Liver and Biliary Diseases Study Group of Japan. Acute presentation of autoimmune hepatitis: a multicentre study with detailed histological evaluation in a large cohort of patients. *Journal of Clinical Pathology*. 2017, 70: 961-969.
- 16) Takahashi A, Arinaga-Hino T, Ohira H, [Torimura T](#), Zeniya M, Abe M, Yoshizawa K, Takaki A, Suzuki Y, Kang JH, Nakamoto N, Fujisawa T, Yonemoto K, Tanaka A, Takikawa H; Autoimmune Hepatitis Study Group-Subgroup of the Intractable Hepato-Biliary Disease Study Group in Japan. Autoimmune hepatitis in Japan: trends in a nationwide survey. *Journal of Gastroenterology*. 2017, 52: 631-641.
- 17) Nakano M, Niizeki T, Nagamatsu H, Tanaka M, Kuromatsu R, Satani M, Okamura S, Iwamoto H, Shimose S, Shirono T, Noda Y, Koga H, [Torimura T](#); Kurume Liver Cancer Study Group of Japan. Clinical effects and safety of intra arterial infusion therapy of cisplatin suspension in lipiodol combined with 5 fluorouracil versus sorafenib, for advanced hepatocellular carcinoma with macroscopic vascular invasion without extra hepatic spread: A prospective cohort study. *Molecular and Clinical Oncology*. 7: 1013-1020, 2017
- 18) Oochi T, Kawaguchi T, Nakahara T, Ono M, Noguchi S, Koshiyama Y, Munekeg K, Murakami E, Hiramatsu A, Ogasawara M, Hirose A, Mizuta H, Masuda K, Okamoto N, Suganuma N, Chayama K, Yamaguchi M, [Torimura T](#), Saibara T. Differences in characteristics of glucose intolerance between patients with NAFLD and chronic hepatitis C as determined by CGMS. *Scientific Reports*. 2017, 7: 10146(page.1-9).
- 19) Abe M, Yoshida T, Akiba J, Ikezono Y, Wada F, Masuda A, Sakaue T, Tanaka T, Iwamoto H, Nakamura T,

- Sata M, Koga H, Yoshimura A, [Torimura T](#). STAT3 deficiency prevents hepatocarcinogenesis and promotes biliary proliferation in thioacetamide-induced liver injury. *World Journal of Gastroenterology*. 2017, 23: 6833-6844.
- 20) Kawaguchi T, Koga H, [Torimura T](#). Recent Advances in the Pathogenesis of Hepatitis C Virus-Related Non-Alcoholic Fatty Liver Disease and Its Impact on Patients Cured of Hepatitis C. *Current Hepatology Reports*. 2017, 16: 317-325.
- 21) Hashida R, Kawaguchi T, Bekki M, Omoto M, Matsuse H, Nago T, Takano Y, Ueno T, Koga H, George J, Shiba N, [Torimura T](#). Aerobic versus resistance exercise in non-alcoholic fatty liver disease: A systematic review. *Journal of Hepatology*. 2017, 66: 142-152.
- 22) Wada F, Koga H, Akiba J, Niizeki T, Iwamoto H, Ikezono Y, Nakamura T, Abe M, Masuda A, Sakaue T, Tanaka T, Kakuma T, Yano H, [Torimura T](#). High expression of CD44v9 and xCT in chemoresistant hepatocellular carcinoma: Potential targets by sulfasalazine. *Cancer science*. 2018, 109: 2801-2810.
- 23) Iwamoto H, Abe M, Yang Y, Cui D, Seki T, Nakamura M, Hosaka K, Lim S, Wu J, He X, Sun X, Lu Y, Zhou Q, Shi W, [Torimura T](#), Nie G, Li Q, Cao Y. Cancer Lipid Metabolism Confers Antiangiogenic Drug Resistance. *Cell metabolism*. 2018, 28: 104-117.
- 24) Daniels SJ, Leeming DJ, Eslam M, Hashem AM, Nielsen MJ, Krag A, Karsdal MA, Grove JL, Guha IN, Kawaguchi T, [Torimura T](#), McLeod D, Akiba J, Kaye P, de Boer B, Aithal GP, Adams LA, George J. ADAPT: An algorithm incorporating PRO-C3 accurately identifies patients with NAFLD and advanced fibrosis. *Hepatology*. 2018, doi:10.1002/hep.30163.
- 25) Arinaga-Hino T, Ide T, Miyajima I, Ogata K, Kuwahara R, Amano K, Kawaguchi T, Nakamura T, Kawaguchi T, Koga H, Yonemoto K, [Torimura T](#); Kurume Autoimmune Hepatitis Study Group. Risk of malignancies in autoimmune hepatitis type 1 patients with a long-term follow-up in Japan. *Hepatology Research*. 2018, 48: E222-E231.
- 26) Oeda S, Takahashi H, Yoshida H, Ogawa Y, Imajo K, Yoneda M, Koshiyama Y, Ono M, Hyogo H, Kawaguchi T, Fujii H, Nishino K, Sumida Y, Tanaka S, Kawanaka M, [Torimura T](#), Saibara T, Kawaguchi A, Nakajima A, Eguchi Y; Japan Study Group for NAFLD (JSG-NAFLD). Prevalence of pruritus in patients with chronic liver disease: a multicenter study. *Hepatology Research*. 2018, 48: E252-E262.
- 27) Kawaguchi T, Inokuchi T, Honma T, Itano S, Kawasaki E, Inada C, Aoki T, Tsumura N, Araki A, Mukae T, [Torimura T](#). Factors Associated with Advanced Hepatic Fibrosis in Patients with Various Internal Diseases: A Multicenter Community-based Survey. *Hepatology Research*. 2018, 48: 882-892.
- 28) Aiso M, Takikawa H, Tsuji K, Kagawa T, Watanabe M, Tanaka A, Sato K, Sakisaka S, Hiasa Y, Takei Y, Ohira H, Ayada M, Hashimoto E, Kaneko S, Ueno Y, Ohmoto K, Takaki A, [Torimura T](#), Matsuzaki Y, Tajiri K, Yoneda M, Ito T, Kato N, Ikejima K, Mochida S, Yasuda H, Sakamoto N. An analysis of 307 cases with drug-induced liver injury between 2010 and 2018 in Japan. *Hepatology research : the official journal of the Japan Society of Hepatology*. 2018, 49:105-110.
- 29) Takahashi A, Arinaga-Hino T, Ohira H, Abe K, [Torimura T](#), Zeniya M, Abe M, Yoshizawa K, Takaki A, Suzuki Y, Kang JH, Nakamoto N, Fujisawa T, Tanaka A, Takikawa H. Non-alcoholic fatty liver disease in patients with autoimmune hepatitis. *JGH open : an open access journal of gastroenterology and hepatology*. 2018, 2: 54-58.
- 30) Tateishi R, Uchino K, Fujiwara N, Takehara T, Okanoue T, Seike M, Yoshiji H, Yatsuhashi H, Shimizu M, [Torimura T](#), Moriyama M, Sakaida I, Okada H, Chiba T, Chuma M, Nakao K, Isomoto H, Sasaki Y, Kaneko S, Masaki T, Chayama K, Koike K. A nationwide survey on non-B, non-C hepatocellular carcinoma in Japan: 2011-2015 update. *Journal of gastroenterology*. 2018, 29:online.
- 31) Ikeda M, Kudo M, Aikata H, Nagamatsu H, Ishii H, Yokosuka O, [Torimura T](#), Morimoto M, Ikeda K, Kumada H, Sato T, Kawai I, Yamashita T, Horio H, Okusaka T; Miriplatin TACE Study Group. Transarterial chemoembolization with miriplatin vs. epirubicin for unresectable hepatocellular carcinoma: a phase III randomized trial. *Journal of Gastroenterology*. 2018, 53: 281-290.
- 32) Koya S, Kawaguchi T, Hashida R, Hirota K, Bekki M, Goto E, Yamada M, Sugimoto M, Hayashi S, Goshima N, Yoshiyama T, Otsuka T, Nozoe R, Nagamatsu A, Nakano D, Shirono T, Shimose S, Iwamoto H, Niizeki T, Matsuse H1, Koga H, Miura H, Shiba N, [Torimura T](#). Effects of In-Hospital Exercise on Sarcopenia in Hepatoma Patients Who Underwent Transcatheter Arterial Chemoembolization. *Journal of gastroenterology and hepatology*. 2018, 7,doi:10.1111/jgh.14358.
- 33) Kawaguchi T, Nakano D, Koga H, [Torimura T](#). Effects of a DPP4 Inhibitor on Progression of NASH-related HCC and the p62/Keap1/Nrf2-Pentose Phosphate Pathway in a Mouse Model. *Liver Cancer*. 2018, in press.
- 34) Kawaguchi T, Nakano D, Oriishi T, [Torimura T](#). Effects of isomaltulose on insulin resistance and metabolites in patients with nonalcoholic fatty liver disease: A metabolomic analysis. *Molecular medicine reports*. 2018, 18: 2033-2042.
- 35) Shirono T, Iwamoto H, Niizeki T, Shimose S, Nakano M, Satani M, Okamura S, Noda Y, Kamachi N, Kuromatsu R, Sakai M, Nomiyama M, Kuwano T, Tanaka M, Koga H, [Torimura T](#). Epirubicin is More Effective than Miriplatin in Balloon-Occluded Transcatheter Arterial Chemoembolization for Hepatocellular Carcinoma. *Oncology*. 2018.
- 36) Kawaguchi T, Tokushige K, Hyogo H, Aikata H, Nakajima T, Ono M, Kawanaka M, Sawada K, Imajo K, Honda K, Takahashi H, Mori K, Tanaka S, Seko Y, Nozaki Y, Kamada Y, Fujii H, Kawaguchi A, Takehara T, Yanase M, Sumida Y, Eguchi Y, Seike M, Yoneda M, Suzuki Y,

Saibara T, Karino Y, Chayama K, Hashimoto E, George J, Torimura T. A Data Mining-based Prognostic Algorithm for NAFLD-related Hepatoma Patients: A Nationwide Study by the Japan Study Group of NAFLD. Scientific reports.2018, 8: 10434(page.1-13).

37) Nishina S, Yamauchi A, Kawaguchi T, Kaku K, Goto M, Sasaki K, Hara Y1 Tomiyama Y, Kuribayashi F, Torimura T, Hino K. Dipeptidyl Peptidase 4 Inhibitors Reduce Hepatocellular Carcinoma by Activating Lymphocyte Chemotaxis in Mice. Cellular and Molecular Gastroenterology and Hepatology. 2019;7: 115-134.

2. 学会発表

1. ○本間雄一、井出達也、岩根紳治、江口有一郎、鳥村拓司、原田 大. ダクラタスビル/アスナプレビル併用療法の効果に影響する因子と腎機能障害例への安全性. 第 102 回日本消化器病学会総会. 東京. 2016/4/21
2. ○井出達也、有永照子、鳥村拓司. パネルディスカッション(2)ウイルス性肝炎研究の新戦略. 薬剤耐性変異からみた Daclatasvir/Asunaprevir 併用療法の治療効果. 第 102 回日本消化器病学会総会. 東京. 2016/4/21
3. 永松洋明、新関 敬、鳥村拓司. パネルディスカッション(9)Intermediate から進行肝細胞癌治療の最前線. 進行肝細胞癌に対する New FP 療法を中心とした集学的治療の検討：延命から治癒への挑戦. 第 102 回日本消化器病学会総会. 東京. 2016/4/21
4. 中村 徹、古賀浩徳、鳥村拓司. ワークショップ(2)臨床応用を見据えた肝再生医学・線維化研究の新展開. 培養 CD34+細胞を用いた肝硬変に対する肝再生治療. 第 102 回日本消化器病学会総会. 東京. 2016/4/21
5. ○桑原礼一郎、天野恵介、入江 梓、永田善久、田中俊光、野田 悠、佐々木優、緒方 啓、有永照子、宮島一郎、井出達也、原田さやか、鹿毛政義、高須 修、鳥村拓司. ダクラタスビル・アスナプレビル併用療法中に HBV 再活性化により肝不全となった 1 例. 第 42 回日本急性肝不全研究会. 千葉市. 2016/5/18
6. 森田 俊、永松洋明、重貴彦、小岡洋平、堤 翼、平井真吾、安秀紀、立石秀夫、小野典之、鳥村拓司. ソラフェニブ投与における副作用対策としてのテレフォンプォロアアップの有用性. 第 52 回日本肝臓学会総会. 千葉市. 2016/5/19
7. 中野聖士、田中正俊、黒松亮子、永松洋明、古賀浩徳、鳥村拓司. 進行肝細胞癌に対するソラフェニブ治療の予後予測における Inflammation-based prognostic score (Glasgow prognostic score : GPS)の有用性. 第 52 回日本肝臓学会総会. 千葉市. 2016/5/19
8. 桑原礼一郎、Neil D, Theise、井出達也、古賀浩徳、鳥村拓司. Peribiliary hepatocyte と Canals of Hering の肝幹細胞・肝前駆細胞ニツシエとしての可能性. 第 52 回日本肝臓学会総会. 千葉市. 2016/5/19
9. 中村 徹、古賀浩徳、鳥村拓司. 培養 CD34+細胞を用いた際医乏移植療法による肝線維化改善促進の機序解明. 第 52 回日本肝臓学会総会. 千葉市. 2016/5/19
10. 岩本英希、鳥村拓司、古賀浩徳. マウス肝癌モデルを用いた Notch 抑制剤の効果検討. 第 52 回日本肝臓学会総会. 千葉市. 2016/5/19
11. 川口 巧、谷口英太郎、鳥村拓司. DDP4 阻害剤が NASH モデルマウスの肝癌におよぼす影響. 第 52 回日本肝臓学会総会. 千葉市. 2016/5/19
12. 新関 敬、相野 一、岩本英希、下瀬茂男、城野智毅、黒松亮子、鳥村拓司. 切除不能肝内胆管癌に対するジェムザール(GEM)+シスプラチン(CDDP)療法のセカンドライン治療としての GEM 全身投与と CDDP+5-FU 肝動注併用療法の検討. 第 52 回日本肝臓学会総会. 千葉市. 2016/5/19
13. ○黒松亮子、中野聖士、佐谷 学、岡村修祐、井出達也、鳥村拓司. C 型慢性肝炎症例における IFN にて SVR 後の肝細胞癌の再発、予後の検討. 第 52 回日本肝臓学会総会. 千葉市. 2016/5/19
14. 有永照子、井出達也、鳥村拓司. 自己免疫性肝炎の肝障害程度による治療およびステロイド投与量の選択. 第 52 回日本肝臓学会総会. 千葉市. 2016/5/19
15. 永松洋明、新関 敬、鳥村拓司. シンポジウム (1)B 型肝炎研究の Up-To-Date. 脈管侵襲を有する進行肝細胞癌に対する New FP 療法：長期生存を目標とした Cancer -Free への条件. 第 52 回日本肝臓学会総会. 千葉市. 2016/5/19
16. ○井出達也、江口有一郎、鳥村拓司. ワークシ

- ップ(9)ウイルス性肝炎の新時代に向けて. C 型肝炎患者での重度の合併症を有する例・高度肝線維化進展例への DAAs 治療の現況. 第 52 回日本肝臓学会総会. 千葉市. 2016/5/19
17. ○井出達也、有永照子、宮島一郎、緒方 啓、桑原礼一郎、天野恵介、鳥村拓司. ワークショップ(3)ウイルス肝炎の治療：現状と展望. 当院における C 型慢性肝疾患に対する Direct Acting Antivirals(DAAs)療法の検討. 第 107 回日本消化器病学会九州支部例会、第 101 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 佐賀市. 2016/6/24
 18. ○石井邦英、田口 順、則松 宏、中根智幸、馬場真二、上野隆登、鳥村拓司. ワークショップ(3)ウイルス肝炎の治療：現状と展望. C 型慢性肝炎、肝硬変に対するハーボニー配合錠の治療効果について. 第 107 回日本消化器病学会九州支部例会、第 101 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 佐賀市. 2016/6/24
 19. ○森田 俊、永松洋明、小岡洋平、重貴彦、堤翼、平井真吾、立石秀夫、鳥村拓司. ワークショップ(3)ウイルス肝炎の治療：現状と展望. HCV に対するインターフェロン・フリー経口剤治療経過中に肝細胞癌を発症した症例の検討. 第 107 回日本消化器病学会九州支部例会、第 101 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 佐賀市. 2016/6/24
 20. Nagamatsu H, Niizeki T, Kooka Y, Morita M, Torimura T. Top Scored Posters. Hepatic arterial infusion chemotherapy for progressive hepatocellular carcinoma with vascular invasion with goal of 5-year survival. International Liver Cancer Association, 10th Annual Conference (ILCA 2016). Vancouver, Canada. 2016/9/1
 21. ○Morita M, Nagamatsu H, Kooka Y, Torimura T. Poster Session. A study of patients developing hepatocellular carcinoma during direct-acting antivirals (DAA S) for hepatitis C virus. International Liver Cancer Association, 10th Annual Conference (ILCA 2016). Vancouver, Canada. 2016/9/1
 22. Wada F, Koga H, Akiba J, Ikezono Y, Nakamura T, Iwamoto H, Masuda A, Sakaue T, Tanaka T, Abe M, Yano H, Torimura T. Poster Presentation & Discussion : Chemotherapy(1). Sulfasalazine targets the xCT-CD44v9 system sensitizing aggressive liver cancer cells to oxidative stress. The 12th JSH Single Topic Conference "Hepatocellular carcinoma: New moventnts in the world". Kanazawa, Japan. 2016/9/22
 23. 中村 徹、古賀浩徳、増田篤高、岩本英希、池園 友、和田史孝、阪上尊彦、田中俊光、上野隆登、鳥村拓司. 培養 CD34 陽性細胞を用いた免疫不全ラット肝硬変モデルに対する細胞療法の肝線維化改善促進の機序解明. 第 48 回日本臨床分子形態学会総会・学術集会. 熊本市. 2016/9/23
 24. 川口 巧、鳥村拓司. ワークショップ(1)新時代の慢性肝疾患研究. 肝疾患における糖尿病の病態と薬物療法の検討. 第 48 回日本臨床分子形態学会総会・学術集会. 熊本市. 2016/9/23
 25. Koga H, Wada F, Akiba J, Ikezono J, Iwamoto H, Nakamura T, Masuda A, Sakaue T, Yano H, Torimura T. English Oral Sessions : Wnt Signaling. TCF-4 isoform upregulates CLAUDIN-2, thereby activating NOTCH signaling in human liver cancer cells. 第 75 回日本癌学会学術集会. 横浜市. 2016/10/6
 26. Iwamoto H, Torimura T, Koga H. English Oral Sessions : Invasion and Microenvironment. PIGF induced VEGFR1-dependent vascular remodeling determines opposing antitumor effects of Notch inhibitors. 第 75 回日本癌学会学術集会. 横浜市. 2016/10/6
 27. 和田史孝、古賀浩徳、秋葉 純、池園 友、中村 徹、岩本英希、阪上尊彦、増田篤高、安倍満彦、矢野博久、鳥村拓司. xCT-CD44v9 システムを標的とするスルファサラジンは、肝癌細胞において酸化ストレスを介したアポトーシスを誘導する. 第 75 回日本癌学会学術集会. 横浜市. 2016/10/6
 28. 川口 巧、谷口英太郎、鳥村拓司. シンポジウム(5)肝疾患と栄養：新しい視点から. 肝硬変患者の認知能低下：潜在性肝性脳症と交通事故の視点から. 第 14 回大連合大会(第 38 回日本臨床栄養学会総会、第 37 回日本臨床栄養協会総会). 大阪市. 2016/10/7
 29. 永松洋明、小岡洋平、木嶋 愛、重貴彦、森田俊、堤 翼、平井真吾、立石秀夫、鳥村拓司. ワークショップ(36). 肝臓(4)：進行・再発幹細胞がんの治療. 肝動注用シスプラチン含有ヘパスフィア TM を用いた DEB-TACE における血中 Pt 濃度推移の検討. 第 54 回日本癌治療学会学術集会. 横浜市. 2016/10/20
 30. Kawaguchi T, Taniguchi E, Oriishi T, Torimura T.

- Free Paper (Oral) : Liver (1). Dipeptidyl peptidase 4 inhibitor suppressed tumor progression with inhibition of pentose-phosphate pathway through Nrf nuclear expression in a mouse model of non-alcoholic steatohepatitis-related hepatocellular carcinoma . Asian Pacific Digestive Week 2016 (APDW 2016). Kobe, Japan. 2016/11/2
31. 有永照子、井出達也、鳥村拓司. ワークショップ(7)自己免疫性肝疾患:これからの課題. AIH と PBC の Overlap 症候群の臨床的特徴: AIH との比較検討. 24th JDDW(第 20 回日本肝臓学会大会、第 58 回日本消化器病学会大会 合同). 神戸市. 2016/11/3
 32. 永松洋明、新関 敬、鳥村拓司. パネルディスカッション(10)肝細胞癌の外科治療のタイミングと限界. 脈管侵襲を有する切除不能進行肝細胞癌を肝動注後肝切除へ導く条件について. 24th JDDW(第 20 回日本肝臓学会大会、第 58 回日本消化器病学会大会、第 14 回日本消化器外科学会大会 合同). 神戸市. 2016/11/3
 33. ○黒松亮子、井出達也、鳥村拓司. 統合プログラム(1)肝細胞癌根治治療後の肝炎ウイルス治療の展開. 肝癌根治後に DAA にて SVR を達成した患者の特徴: IFN-SVR, 肝癌のない DAA-SVR との比較. 24th JDDW(第 20 回日本肝臓学会大会、第 58 回日本消化器病学会大会、第 14 回日本消化器外科学会大会 合同). 神戸市. 2016/11/3
 34. 川口 巧、小野正文、鳥村拓司. パネルディスカッション(3)肝炎ウイルス制御下時代の肝癌診療. 非 B 非 C 肝がんの発症・予後とアルブミンの関連: Random Forest 分析. 24th JDDW(第 20 回日本肝臓学会大会、第 58 回日本消化器病学会大会、第 14 回日本消化器外科学会大会、第 54 回日本消化器がん検診学会大会 合同). 神戸市. 2016/11/3
 35. 新関 敬、古賀浩徳、鳥村拓司. 進行肝細胞癌に対する肝動注化学療法の治療効果予測因子. 24th JDDW(第 20 回日本肝臓学会大会). 神戸市. 2016/11/3
 36. 下瀬茂男、新関 敬、城野智毅、岩本英希、岡村修祐、中野聖士、佐谷 学、黒松亮子、田中正俊、古賀浩徳、鳥村拓司. DEB-TACE における寛解の条件と留意すべき合併症. 24th JDDW(第 20 回日本肝臓学会大会). 神戸市. 2016/11/3
 37. 間野洋平、熊谷恵里奈、正司裕隆、由雄祥代、杉山真也、是永匡紹、厚川正則、川口 巧、鳥村拓司、溝上雅史、考藤達哉. 非アルコール性脂肪性肝疾患における YKL-40 の意義. 24th JDDW(第 20 回日本肝臓学会大会). 神戸市. 2016/11/3
 38. 天野恵介、井出達也、桑原礼一郎、緒方 啓、宮島一郎、有永照子、鳥村拓司. 当院における若年性 B 型肝炎の検討. 24th JDDW(第 20 回日本肝臓学会大会). 神戸市. 2016/11/3
 39. 和田史孝、古賀浩徳、秋葉 純、池園 友、中村 徹、岩本英希、阪上尊彦、増田篤高、安倍満彦、鹿毛政義、矢野博久、鳥村拓司. 酸化ストレス抵抗性を標的とした肝癌治療の可能性. 24th JDDW(第 20 回日本肝臓学会大会). 神戸市. 2016/11/3
 40. ○緒方 啓、井出達也、有永照子、宮島一郎、桑原礼一郎、天野恵介、川口 巧、黒松亮子、古賀浩徳、本間雄一、岡田倫明、岩根紳治、江口有一郎、原田 大、鳥村拓司. C 型慢性肝疾患に対する Daclatasvir および Asunaprevir 併用療法抵抗例の解析(多施設共同研究). 24th JDDW(第 20 回日本肝臓学会大会). 神戸市. 2016/11/3
 41. 清水基規、永松洋明、小岡洋平、徳重貴彦、森田 俊、堤 翼、平井真吾、立石秀夫、鳥村拓司. 難治性腹水を有する肝細胞癌症例に対するトルバプタンの有用性. 24th JDDW(第 20 回日本肝臓学会大会). 神戸市. 2016/11/3
 42. ○岩根紳治、江口有一郎、本間雄一、原田 大、井出達也、鳥村拓司. ダクラタスビル・アスナプレビルによる C 型慢性肝疾患治療後の ALB 上昇に関する検討. 24th JDDW(第 20 回日本肝臓学会大会). 神戸市. 2016/11/3
 43. ○本間雄一、井出達也、柴田道彦、日浦政明、岩根紳治、江口有一郎、鳥村拓司、原田 大. 直接作用型抗ウイルス剤による C 型慢性肝疾患治療後の肝発癌リスク予測因子の検討. 24th JDDW(第 20 回日本肝臓学会大会). 神戸市. 2016/11/3
 44. ○森田 俊、永松洋明、小岡洋平、徳重貴彦、堤 翼、平井真吾、立石秀夫、鳥村拓司. HCV に対するインターフェロン・フリー経口剤治療経過中に肝細胞癌を発症した症例の検討. 24th JDDW(第 20 回日本肝臓学会大会). 神戸市.

- 2016/11/3
45. 桑原礼一郎、N.D.Theise、鳥村拓司. 肝幹細胞・肝前駆細胞ニッシエの探索. 24th JDDW(第20回日本肝臓学会大会). 神戸市. 2016/11/3
 46. 中野聖士、古賀浩徳、鳥村拓司. 進行肝細胞癌に対するソラフェニブ治療における望ましい治療対象：多施設での検討. 24th JDDW(第58回日本消化器病学会大会). 神戸市. 2016/11/3
 47. Shoji H, Yoshio S, Mano Y, Kumagai E, Doi H, Sugiyama M, Korenaga M, Arai T, Itokawa N, Atsukawa M, Aikata H, Hyogo H, Chayama K, Ohashi T, Ito K, Yoneda M, Nozaki Y, Kawaguchi T, Torimura T, Abe M, Hiasa Y, Kamiyama T, Taketomi A, Mizokami M, Kanto T. Poster Session(II) : Steatohepatitis : Clinical and Therapeutic. Interleukin-34 as a fibroblast-derived marker of liver fibrosis in patients with non-alcoholic fatty liver disease. The 67th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Boston, USA. 2016/11/11
 48. Kawaguchi T, Tonan T, Fujimoto K, Abe T, Torimura T. Poster Session(II) : Steatohepatitis : Clinical and Therapeutic. Ectopic fat deposition in skeletal muscle was associated with diabetes mellitus in patients with non-alcoholic fatty liver disease: A MRI-proton density fat-fraction analysis. The 67th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Boston, USA. 2016/11/11
 49. Kawaguchi T, Hashida R, Ueno T, Koga H, George J, Shiba N, Torimura T. Poster Session(II) : Steatohepatitis : Clinical and Therapeutic. What is the optimal exercise regimen for patients with NAFLD: Aerobic or resistance exercise. The 67th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Boston, USA. 2016/11/11
 50. Kuwahara R, Ide T, Koga H, Theise ND, Torimura T. Poster Session(II) : Stem Cell Biology. Identification of pre-adult hepatic stem cell niche by label retaining cell assay during fetal development. The 67th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Boston, USA. 2016/11/11
 51. Nakano M, Tanaka M, Kuromatsu R, Nagamatsu H, Satani M, Niizeki T, Okamura S, Iwamoto H, Shimose S, Shirono T, Noda Y, Koga H, Torimura T. Poster Session(III) : Clinical Hepatocellular Carcinoma. Alternative treatments in advanced hepatocellular carcinoma patients with progressive disease after sorafenib treatment: a prospective multicenter cohort study. The 67th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Boston, USA. 2016/11/11
 52. Torimura T, Koga H, Nakamura T, Iwamoto H, Imamura Y, Ikezono Y, Sakaue T, Wada F, Masuda A, Tanaka T, Yano H, Ueno T, Yamamoto K. Poster Session(III) : Clinical Hepatocellular Carcinoma. DNA methylation level of non-cancerous liver tissue has potential for being a biomarker of multicentric recurrence of hepatocellular carcinoma. The 67th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Boston, USA. 2016/11/11
 53. Kawaguchi T, Ueno T, Nagata Y, Hayakawa M, Koga H, Torimura T. Poster Session(III) : Steatohepatitis : Experimental II. Wheat bran autolytic peptide, containing a branched chain amino acid, improves nonalcoholic steatohepatitis with up-regulation of AMPK/ACC/GSK3 β signaling pathway in high-fat diet-fed mice. The 67th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Boston, USA. 2016/11/11
 54. Kawaguchi T, Taniguchi E, Koga H, Torimura T. Poster Session(III) : Steatohepatitis : Experimental II. DPP4 inhibitor suppressed Warburg-Dickens pathway and HCC progression in a mouse model of NASH: A metabolomic analysis. The 67th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Boston, USA. 2016/11/11
 55. Mano Y, Kumagai E, Shoji H, Yoshio S, Sugiyama M, Korenaga M, Arai T, Itokawa N, Atsukawa M, Hyogo H, Chayama K, Ohashi T, Ito K, Yoneda M, Kawaguchi T, Torimura T, Nozaki Y, Mizokami M, Kanto T. Poster Session(III) : Steatohepatitis : Experimental II. Serum YKL-40 as a marker of liver fibrosis and hepatocellular carcinoma in patients with non-alcoholic fatty liver disease. The 67th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Boston, USA. 2016/11/11
 56. Nakamura T, Koga H, Iwamoto H, Masuda A, Ikezono Y, Wada F, Sakaue T, Tanaka T, Abe M, Ueno T, Torimura T. Poster Session(I) : Cellular Biology. Long term outcome of autologous G-CSF mobilized PB-CD34+ cell therapy in patients with decompensated liver cirrhosis. The 67th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Boston, USA. 2016/11/11
 57. Koga H, Kim M, Imamura Y, Ikezono Y, Wada F, Iwamoto H, Nakamura T, Sakaue T, Masuda A, Tanaka T, Yano H, Wands JR, Torimura T. Poster Session(I) : Experimental Carcinogenesis. The Wnt effector T-CELL FACTOR-4 isoform activates Notch signaling via upregulating CLAUDIN-2 in

- human liver cancer cells. The 67th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Boston, USA. 2016/11/11
58. ○Ide T, Eguchi Y, Harada M, Honma Y, Iwane S, Okada M, Arinaga-Hino T, Miyajima I, Ogata K, Kuwahara R, Amano K, Torimura T. Poster Session(II) : Hepatitis C : New and Approved Agents I. Efficacy and safety of DAAs therapy in hepatitis C: A multicenter real-world cohort of chronic hepatitis C patients. The 67th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Boston, USA. 2016/11/11
59. ○宮島一郎、井出達也、有永照子、緒方 啓、桑原礼一郎、天野恵介、川口俊弘、鳥村拓司. ワークショップ(1)肝炎治療困難例に対する抗ウイルス治療. SOF を含む DAA 治療における failure 例の検討. 第 108 回日本消化器病学会九州支部例会、第 102 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 熊本市. 2016/11/25
60. 新関 敬、岩本英希、城野智毅、下瀬茂男、古賀浩徳、黒松亮子、中野聖士、佐谷 学、岡村修祐、鳥村拓司. ワークショップ(3)消化器癌の集学的治療. 当院における進行肝細胞癌に対する集学的治療. 第 108 回日本消化器病学会九州支部例会、第 102 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 熊本市. 2016/11/25
61. 岩本英希、古賀浩徳、Cao Y、鳥村拓司. 血管新生抑制治療の肝類洞壁細胞への影響についての検討. 第 30 回肝類洞壁細胞研究会学術集会. 富山市. 2016/11/25
62. 古賀浩徳、矢野博久、鳥村拓司. Wnt 下流分子 Claudin-2 による肝癌 Notch シグナルの制御. 第 29 回日本バイオセラピー学会学術集会総会. 久留米市. 2016/12/1
63. 中野聖士、古賀浩徳、鳥村拓司. 進行肝細胞癌に対するソラフェニブ治療の予後予測における modified Glasgow prognostic score (mGPS)の有用性：多施設での検討. 第 41 回日本肝臓学会東部会. 東京. 2016/12/8
64. 岩本英希、中野聖士、新関 敬、古賀浩徳、Yihai Cao、鳥村拓司. 共催シンポジウム(2)ソラフェニブ治療の現状と課題. 進行肝細胞癌 403 例に対するソラフェニブの効果についての検証と血管新生阻害剤中断後におこる病態についての基礎的な検証. 第 15 回日本肝がん分子標的治療研究会. 東京. 2017/1/4
65. 永松あゆ、高柳理沙、丸山奈津実、川口 巧、田尻祐司、居石哲治、鳥村拓司、岩崎昌子、田中芳明. 非 B 非 C 肝がん患者の食習慣の特徴. 第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会. 京都市. 2017/1/13
66. 杉本昌子、川口 巧、林 咲希、江崎菜穂、緒方 奨、橋田竜騎、永松あゆ、高柳理沙、居石哲治、後藤恵美子、岩崎昌子、田中芳明、志波直人、鳥村拓司、龍 知子. 消化器疾患患者におけるサルコペニアの実態. 第 32 回日本静脈経腸栄養学会学術集会. 岡山市. 2017/2/23
67. Kawaguchi T, Tajiri Y, Kuromatsu R, Koga H, Torimura T. Oral Free Papers: Pathology. Risk Factors Associated with an Increase in Liver Stiffness in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus: A Data-Mining Analysis. APASL Single Topic Conference in Nagasaki “Prevention of HCC development”. Nagasaki, Japan. 2017/4/10
68. ○Kawaguchi T, Ide T, Kuwahara R, Arinaga T, Miyajima T, Koga H, Torimura T. Poster: HCV-Post SVR. Two Cases of Rapid-Growing Hepatocellular Carcinoma after Direct Acting Anti-Viral Treatment of Hepatitis C Virus Infection. APASL Single Topic Conference in Nagasaki “Prevention of HCC development”. Nagasaki, Japan. 2017/4/10
69. Noda Y, Kawaguchi T, Nakano M, Koga H, Torimura T. Poster: HCC Clinical. Factors Associated with the Prognosis of Patients with Non-Hepatitis B Virus-, Non-Hepatitis C Virus-Related Hepatocellular Carcinoma. APASL Single Topic Conference in Nagasaki “Prevention of HCC development”. Nagasaki, Japan. 2017/4/10
70. 新関 敬、古賀浩徳、鳥村拓司. 肝癌 当院における肉眼的脈管浸潤を合併する進行肝細胞癌の予後因子と治療戦略. 第 103 回日本消化器病学会総会. 東京. 2017/4/20
71. ○井出達也、江口有一郎、原田 大、岩根伸治、本間雄一、有永照子、宮島一郎、緒方 啓、桑原礼一郎、天野恵介、川口俊弘、鳥村拓司. C 型肝炎. C 型肝炎に対する SOF ベースの DAAs 治療効果の検討. 第 103 回日本消化器病学会総会. 東京. 2017/4/20
72. 川口 巧、橋田竜騎、鳥村拓司. シンポジウム(6). NAFLD・NASH 病態生理の最新知見と治療戦略.

- 有酸素運動とレジスタンス運動の NAFLD 改善効果の比較検討. 第 103 回日本消化器病学会総会. 東京. 2017/4/20
73. ○本間雄一、井出達也、柴田道彦、日浦政明、阿部慎太郎、岩根紳治、江口有一郎、鳥村拓司、原田 大. プレナリーセッション. 肝 2. 直接作用型抗ウイルス剤治療による SVR 達成後の肝発癌に影響する因子の検討. 第 103 回日本消化器病学会総会. 東京. 2017/4/20
74. 温 恵理、新関 敬、岩本英希、下瀬茂男、城野智毅、岡村修祐、中野聖士、佐谷 学、黒松亮子、古賀浩徳、奥田康司、鳥村拓司. Sorafenib 不応の進行肝細胞癌に対し NewFP 療法が奏効した 1 例. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会、第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 福岡市. 2017/5/19
75. 宮崎 健、城野智毅、新関 敬、下瀬茂男、岩本英希、野田 悠、岡村修祐、中野聖士、佐谷学、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司. Sorafenib 抵抗性の肺転移に対し気管支動脈からの抗癌剤動注が奏効した 1 例. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会、第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 福岡市. 2017/5/19
76. 野見山美香、下瀬茂男、新関 敬、土居靖宗、野田 悠、城野智毅、岩本英希、佐谷 学、古賀浩徳、鳥村拓司. 肝転移巣の腹腔内破裂を契機に診断された AFP 産生胃癌の 1 例. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会、第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 福岡市. 2017/5/19
77. 鈴木浩之、宮島一郎、川口俊弘、天野恵介、桑原礼一郎、有永照子、井出達也、鳥村拓司. 急性 C 型肝炎後に慢性化し経口抗ウイルス剤にて SVR12 となった 1 例. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会、第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 福岡市. 2017/5/19
78. 牛嶋珠里、下瀬茂男、新関 敬、城野智毅、岩本英希、古賀浩徳、吉住明晴、前原喜彦、鳥村拓司. Child-Pugh class C の肝細胞癌に対して DEB-TACE を用い脳死肝移植まで行えた 1 例. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会、第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 福岡市. 2017/5/19
79. 高木孝太、岩本英希、新関 敬、下瀬茂男、城野智毅、中野聖士、佐谷 学、岡村修祐、野田悠、黒松亮子、古賀浩徳、奥田康司、鳥村拓司. 血液透析中に発症した門脈腫瘍栓を伴う進行肝細胞癌に肝動注化学療法が奏功し、肝切除を加え完全奏効となった 1 例. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会、第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 福岡市. 2017/5/19
80. 菅原脩平、城野智毅、新関 敬、岩本英希、下瀬茂男、野田 悠、岡村修祐、中野聖士、佐谷学、黒松亮子、古賀浩徳、矢野博久、鳥村拓司. 原発性胆汁性胆管炎を背景に発生した肝原発 undifferentiated carcinoma に対し、GEM 全身投与、CDDP, 5-FU の肝動注化学療法で奏効が得られた一例. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会、第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 福岡市. 2017/5/19
81. 森山悦子、新関 敬、岩本英希、下瀬茂男、城野智毅、岡村修祐、中野聖士、佐谷 学、黒松亮子、秋葉 純、矢野博久、奥田康司、古賀浩徳、鳥村拓司. 門脈内腫瘍塞栓、肝内転移を伴う巨大肝細胞癌に対し肝動注化学療法が奏効し肝切除後に病理学的検討を行った 1 例. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会、第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 福岡市. 2017/5/19
82. 岩本英希、安倍満彦、中野聖士、古賀浩徳、鳥村拓司. シンポジウム(1)消化器癌診療への基礎研究からみたアプローチ. 血管新生阻害剤の中断は正常肝の血管構造の変化により癌の転移を促進する. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会、第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 福岡市. 2017/5/19
83. 新関 敬、岩本英希、下瀬茂男、城野智毅、古賀浩徳、鳥村拓司. シンポジウム(3)肝癌診療の進歩. 特徴的な画像所見を呈した退形成性膵管癌の 2 例. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会、第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 福岡市. 2017/5/19
84. 天野恵介、宮島一郎、川口俊弘、桑原礼一郎、有永照子、井出達也、鳥村拓司. ワークショップ(2)ウイルス性肝炎治療の残された問題点. 核酸アナログ製剤投与例における HBsAg 量と

- HBCrAg量の推移. 第109回日本消化器病学会九州支部例会、第103回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 福岡市. 2017/5/19
85. 永松あゆ、川口 巧、高柳理沙、丸山奈津美、田尻祐司、居石哲治、岩崎昌子、田中芳明、鳥村拓司. ワークショップ(3)生活習慣と消化器疾患. 非B非C肝がん患者の食習慣の特徴. 第109回日本消化器病学会九州支部例会、第103回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 福岡市. 2017/5/19
86. 有永照子、高橋敦史、鳥村拓司. 自己免疫性肝炎全国調査—サブ解析報告一. 第53回日本肝臓学会総会. 広島市. 2017/6/8
87. 下瀬茂男、新関 敬、城野智毅、岩本英希、田中正俊、古賀浩徳、鳥村拓司. TACE 不応 stage3 肝癌症例への DEB-TACE 局所制御の検討. 第53回日本肝臓学会総会. 広島市. 2017/6/8
88. 中野聖士、古賀浩徳、鳥村拓司. 進行肝細胞癌に対するソラフェニブ治療の予後予測における肝線維化評価方法(FIB-4)の有用性. 第53回日本肝臓学会総会. 広島市. 2017/6/8
89. 岩本英希、古賀浩徳、鳥村拓司. 血管新生抑制剤の中止は肝類洞の Revascularization を引き起こす. 第53回日本肝臓学会総会. 広島市. 2017/6/8
90. ○森田 俊、永松洋明、重貴彦、小岡洋平、堤翼、平井真吾、清水基規、立石秀夫、井出達也、鳥村拓司. DAA 治療開始後に肝細胞癌を発症したC型肝炎症例の検討. 第53回日本肝臓学会総会. 広島市. 2017/6/8
91. 野田 悠、川口 巧、鳥村拓司. 非B非C肝がん患者の長期生存に関連する因子. 第53回日本肝臓学会総会. 広島市. 2017/6/8
92. ○黒松亮子、井出達也、中野聖士、佐谷 学、岡村修祐、野田 悠、有永照子、古賀浩徳、鳥村拓司. 肝癌根治後 DAA 施行例における肝癌再発についての検討. 第53回日本肝臓学会総会. 広島市. 2017/6/8
93. 城野智毅、新関 敬、下瀬茂男、岩本英希、秋葉 純、古賀浩徳、奥田康司、鳥村拓司. 肝動注化学療法を行った後、根治的肝切除を行えた症例の検討. 第53回日本肝臓学会総会. 広島市. 2017/6/8
94. 新関 敬、古賀浩徳、鳥村拓司. パネルディスカッション(1)進行肝癌の治療戦略. 当科における進行肝細胞癌に対する治療戦略. 第53回日本肝臓学会総会. 広島市. 2017/6/8
95. ○井出達也、江口有一郎、鳥村拓司. ワークショップ(7)ウイルス制御時代の肝癌診療. C型肝炎患者での DAAs 治療後の腫瘍マーカーと肝発癌の検討. 第53回日本肝臓学会総会. 広島市. 2017/6/8
96. 和田史孝、秋葉 純、池園 友、中村 徹、安倍満彦、岩本英希、阪上尊彦、増田篤高、田中俊光、矢野博久、鳥村拓司. 肝動注化学塞栓療法後に残存した肝細胞癌における CD44v9 の発現の検討. 第76回日本癌学会学術総会. 横浜市. 2017/9/28
97. 古賀浩徳、中村 徹、和田史孝、岩本英希、増田篤高、阪上尊彦、田中俊光、安倍満彦、秋葉純、矢野博久、鳥村拓司. HES1 は WNT シグナル改変肝癌細胞においてスフィア形成能や造腫瘍能を決定的に制御する. 第76回日本癌学会学術総会. 横浜市. 2017/9/28
98. Yoshida T, Akiba J, Koga H, Torimura T. PEDF prevents hepatic fat storage, inflammation and fibrosis in dietary steatohepatitis of mice. 25th JDDW. 福岡市. 2017/10/12
99. 中村 徹、古賀浩徳、鳥村拓司. パネルディスカッション(4)肝再生研究の進歩. 自家末梢血 CD34 陽性細胞を用いた肝再生治療開発の臨床研究. 25th JDDW(第21回日本肝臓学会大会、第59回日本消化器病学会大会、第15回日本消化器外科学会大会 合同). 福岡市. 2017/10/12
100. 川口 巧、志波直人、鳥村拓司. ワークショップ(10)肝硬変合併症対策の進歩. 運動療法が肝硬変患者のサルコペニアにおよぼす影響. 25th JDDW(第21回日本肝臓学会大会、第59回日本消化器病学会大会、第94回日本消化器内視鏡学会大会、第15回日本消化器外科学会大会 合同). 福岡市. 2017/10/12
101. 岩本英希、新関 敬、下瀬茂男、城野智毅、相野 一、中野聖士、佐谷 学、岡村修祐、野田悠、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司. 脈管浸潤を伴う進行肝細胞癌に対する New-FP 療法と放射線治療の併用療法についての検討. 25th JDDW(第21回日本肝臓学会大会). 福岡市. 2017/10/12
102. 城野智毅、新関 敬、下瀬茂男、岩本英希、古

- 賀浩徳、鳥村拓司. 当院における Balloon-Occluded Transarterial Chemoembolization(B-TACE)の有効性と安全性について. 25th JDDW(第 21 回日本肝臓学会大会). 福岡市. 2017/10/12
103. 新関 敬、中野聖士、岩本英希、下瀬茂男、城野智毅、相野 一、古賀浩徳、鳥村拓司. 当院における肉眼的脈管浸潤を伴う進行肝細胞癌に対する治療戦略. 25th JDDW(第 21 回日本肝臓学会大会). 福岡市. 2017/10/12
104. 川口 巧、黒松亮子、鳥村拓司. 糖尿病合併 NAFLD 患者の肝硬度上昇に関わるプロファイル：データマイニング解析. 25th JDDW(第 21 回日本肝臓学会大会). 福岡市. 2017/10/12
105. ○本間雄一、井出達也、柴田道彦、日浦政明、岩根伸治、宮原千賀、田中靖人、江口有一郎、鳥村拓司、原田 大. 多施設共同研究での実臨床データからみた DAAs 治療難治例の予測. 25th JDDW(第 21 回日本肝臓学会大会). 福岡市. 2017/10/12
106. ○宮島一郎、井出達也、川口俊弘、天野恵介、桑原礼一郎、有永照子、鳥村拓司. C 型慢性肝疾患に対するダクラタスビル・アスナプレビル併用療法による ELF Score の推移. 25th JDDW(第 21 回日本肝臓学会大会). 福岡市. 2017/10/12
107. 下瀬茂男、新関 敬、田中正俊、岩本英希、城野智毅、野田 悠、岡村修祐、中野聖士、佐谷学、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司. C-TACE と DEB-TACE の治療効果比較, 及び C-TACE 不応への DEB-TACE の検討. 25th JDDW(第 21 回日本肝臓学会大会). 福岡市. 2017/10/12
108. ○井出達也、江口有一郎、原田 大、岩根伸治、宮原千賀、本間雄一、有永照子、宮島一郎、桑原礼一郎、天野恵介、川口俊弘、鳥村拓司. 【優秀演題】C 型肝疾患での DAAs-SVR 例の肝発癌の検討. 25th JDDW(第 21 回日本肝臓学会大会). 福岡市. 2017/10/12
109. 岩本英希、古賀浩徳、山本 健、鳥村拓司. 非癌部肝組織の DNA メチル化の変化は肝細胞癌の多中心性発生のバイオマーカーになり得る. 25th JDDW(第 59 回日本消化器病学会大会). 福岡市. 2017/10/12
110. 猪口哲彰、稲田千鶴子、川 英二、田中弘吉、川口 巧、鳥村拓司. 糖尿病患者における NAFLD 進展リスク因子の検討：久留米内科医会・久留米大学共同研究. 第 55 回日本糖尿病学会九州地方会. 宮崎市. 2017/10/13
111. Kawaguchi T, Ide T, Amano K, Kuwahara R, Arinaga-Hino T, Miyjima I, Torimura T. Changes in fibrotic markers in chronic hepatitis C patients treated with direct antiviral agents and the enhanced liver fibrosis score as a predictor of hepatocellular carcinoma. The 68th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Washington, DC. 2017/10/20
112. Iwamoto H, Koga H, Torimura T. Inhibition of hypoxia inducible factor via upregulation of von Hippel-Lindau protein induces 'Angiogenic switch off' in a mouse hepatoma model. The 68th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Washington, DC. 2017/10/20
113. Abe M, Yoshida T, Akiba J, Ikezono Y, Wada F, Masuda A, Sakaue T, Tanaka T, Iwamoto H, Nakamura T, Sata M, Koga H, Yoshimura A, Torimura T. STAT3 deficiency prevents hepatocarcinogenesis and promotes transdifferentiation of hepatocytes into biliary cells in chronic liver injury of mice. The 68th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Washington, DC. 2017/10/20
114. Yu Noda, Kawaguchi T, Korenaga M, Nakano M, Niizeki T, Koga H, Kanto T, Torimura T. A Prognostic Impact of Fibroblast-derived Cytokine, IL-34 in Non-hepatitis B virus-, Non-hepatitis C virus-related Hepatocellular Carcinoma Patients with Chronic Liver Disease. The 68th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Washington, DC. 2017/10/20
115. Kawaguchi T, Tokushige K, Hyogo H, Aikata H, Nakajima T, Ono M, Miwa Kawanaka M, Sawada K, Imajo K, Honda K, Takahashi H, Mori K, Saiyu Tanaka S, Seko Y, Nozaki Y, Kamada Y, Fujii H, Kawaguchi A, Takehara T, Yanase M, Sumida Y, Eguchi Y, Seike M, Yoneda M, Suzuki Y, Saibara T, Karino Y, Chayama K, Hashimoto E, George J, Torimura T. A Novel Prognostic Algorithm for Patients with NAFLD-related Hepatocellular Carcinoma: A Nationwide Data-mining Analysis by Japan Study Group of NAFLD. The 68th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Washington, DC. 2017/10/20
116. Yu Noda, Kawaguchi T, Nakano M, Niizeki T, Kuromatsu R, Koga H, Torimura T. Prognosis of Patients with Non-hepatitis B virus-, Non-hepatitis C virus-related Hepatocellular Carcinoma: A Comparison with Hepatitis C

- virus-related Hepatocellular Carcinoma Patients. The 68th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Washington, DC. 2017/10/20
117. Niizeki T, Iwamoto H, Nakano M, Aino H, Koga H, Torimura T. Robust efficacy of hepatic arterial infusion chemotherapy for advanced hepatocellular carcinoma with macroscopic vascular invasion: a comparative study with sorafenib. The 68th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Washington, DC. 2017/10/20
118. Wada F, Koga H, Jun Akiba, Yu Ikezono, Nakamura T, Abe M, Iwamoto H, Sakaue T, Masuda A, Tanaka T, Yano H, Torimura T. Targeting CD44v9-xCT system by sulfasalazine to overcome cisplatin resistance in human liver cancer cells. The 68th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Washington, DC. 2017/10/20
119. Koga H, Imamura Y, Wada F, Ikezono Y, Abe M, Iwamoto H, Nakamura T, Sakaue T, Tanaka T, Yano H, Torimura T. The Wnt Target Gene CLAUDIN-2 Regulates Tumorigenesis of Combined Hepatocellular- Cholangiocarcinoma Cells. The 68th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Washington, DC. 2017/10/20
120. Kawaguchi T, Oriishi T, Koga H, Torimura T. DPP4 Inhibitor Suppressed Progression of NASH-related Hepatocellular Carcinoma with Inhibition of Metabolic Reprogramming in p62-Keap1-Nrf2-Pentose Phosphate Pathway in a Mouse Model: A Metabolomic Analysis. The 68th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Washington, DC. 2017/10/20
121. Arinaga-Hino T, Takahashi A, Torimura T, Ohira H, Zeniya M, Abe M, Yoshizawa K, Takaki A, Suzuki Y, Kang J-H, Nakamoto N, Fujisawa T, Tanaka A, Takikawa H; Japan AIH Study Group(JAIHSG). Autoimmune hepatitis nationwide survey in Japan - subanalysis report. The 68th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Washington, DC. 2017/10/20
122. Hashida R, Kawaguchi T, Hirota K, Koya S, Goshima N, Otsuka T, Matsuse H, Shiba N, Torimura T. Decorin, a Newly Identified Exercise-induced Myokine, was Associated with Sarcopenia in Patients with Liver Cirrhosis. The 68th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Washington, DC. 2017/10/20
123. ○石井邦英、田口 順、馬場真二、井出達也、鳥村拓司. 当院における C 型慢性肝炎・肝硬変に対する DAA 製剤の治療効果について. 第 110 回日本消化器病学会九州支部例会、第 104 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 那覇市. 2017/11/17
124. 中野 暖、川口 巧、鳥村拓司. ワークショップ (1)非アルコール性脂肪性肝疾患の現状と展望. DPP4 阻害剤が NASH 関連肝がんの進展と代謝におよぼす影響：メタボローム解析. 第 110 回日本消化器病学会九州支部例会、第 104 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 那覇市. 2017/11/17
125. 川口 巧、鳥村拓司. パネルディスカッション. 肝疾患におけるサルコペニアと BCAA. 運動療法と BCAA が肝癌患者の筋肉量におよぼす影響. 第 48 回日本消化吸収学会総会. 盛岡市. 2017/11/25
126. 有永照子、井出達也、鳥村拓司. 自己免疫性肝炎の再燃を血清 IgG 値で予測できるか?. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 福岡市. 2017/11/30
127. 緒方 啓、杉山 元、堀まいさ、久賀征一郎、有永照子、井出達也、秋葉 純、鳥村拓司. 多彩な臨床症状を呈し、肝生検にて診断しえた抗ミトコンドリア抗体陰性原発性胆汁性胆管炎の 1 例. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 福岡市. 2017/11/30
128. ○井出達也、江口有一郎、原田 大、岩根伸治、本間雄一、岡田倫明、宮原千賀、有永照子、宮島一郎、桑原礼一郎、天野恵介、川口俊弘、鳥村拓司. DAA 治療 S V R 後の発癌リスク因子の F I B-4 index 別の検討. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 福岡市. 2017/11/30
129. 川口 巧、志波直人、鳥村拓司. シンポジウム(2) 生活習慣病関連肝疾患の基礎と臨床. NAFLD に対する運動プロトコールの検討. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 福岡市. 2017/11/30
130. 和田史孝、古賀浩徳、鳥村拓司. シンポジウム(7) 進行肝細胞癌治療における最新治療：基礎と臨床の立場から. xCT 阻害剤スルファサラジンによる肝癌シスプラチン耐性の克服. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 福岡市. 2017/11/30
131. 鈴木浩之、中野聖士、鳥村拓司. 特別企画 症例に学ぶ 肝腫瘍生検での診断をもとに肝切除術を施行し得た細胆管細胞癌の 2 症例. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 福岡市. 2017/11/30
132. 森下麻子、黒松亮子、川野祐幸、相園多美子、福島奈央、藤井麻衣、長山亜由美、橋本好司、

- 鳥村拓司、中島 収. 非 B 非 C 肝疾患における肝硬度測定の有用性. 日本超音波医学会(第 27 回九州地方会学術集会). 鹿児島市. 2017/12/23
133. 池田真由美、丸山奈津実、永松あゆ、高柳理沙、川口 巧、居石哲治、田尻祐司、野村政壽、鳥村拓司、岩崎昌子、田中芳明. 非 B 非 C 肝がん患者の食習慣の特徴. 第 21 回日本病態栄養学会年次学術集会. 京都市. 2018/1/12
134. 高柳理沙、永松あゆ、川口 巧、広田桂介、神谷俊次、丸山奈津実、池田真由美、居石哲治、鳥村拓司、岩崎昌子、八木 実. 肝癌治療中の患者の筋肉量変化に関するプロファイル解析. 第 21 回日本病態栄養学会年次学術集会. 京都市. 2018/1/12
135. 中野聖士、黒松亮子、佐谷 学、新関 敬、相野 一、岡村修祐、岩本英希、下瀬茂男、城野智毅、野田 悠、古賀浩徳、鳥村拓司. 進行肝細胞癌に対するソラフェニブ治療後のセカンドラインにおいて、レゴラフェニブ治療が適格・不適格となる要件. 第 17 回日本肝がん分子標的治療研究会. 横浜市. 2018/1/13
136. Koga H, Wada F, Abe M, Iwamoto H, Nakamura T, Sakae T, Masuda A, Tanaka T, Yano H, Torimura T. Section 2. The Wnt target CLAUDIN-2 regulates tumorigenesis and stemness in human liver cancer cells. The 109th Annual Meeting of the American Association for Cancer Research (AACR). Chicago, USA. 2018/4/14
137. ○黒松亮子、井出達也、野田 悠、岡村修祐、佐谷 学、中野聖士、鳥村拓司. C 型肝癌根治的治療後の再発率, 肝予備能, 再発後の治療: IFN, DAA, 抗ウイルス治療(-)症例の比較. 第 104 回日本消化器病学会総会. 東京. 2018/4/19
138. ○井出達也、江口有一郎、鳥村拓司. シンポジウム(8)C 型肝炎治療: 現状と展望. C 型肝炎患者での DAA 治療を行なった例の発癌についての検討. 第 104 回日本消化器病学会総会. 東京. 2018/4/19
139. 川口 巧、中野 暖、橋田竜騎、城野智毅、下瀬茂男、岩本英希、相野 一、新関 敬、古賀浩徳、志波直人、鳥村拓司. プレナリーセッション 肝(2)運動療法が肝がん患者のサルコペニアにおよぼす影響. 第 104 回日本消化器病学会総会. 東京. 2018/4/19
140. Kuwano T, Iwamoto H, Niizeki T, Nakano M, Aino H, Shimose S, Shirono T, Okamura S, Noda Y, Nomiya M, Koga H, Torimura T. Significance of intervention of hepatic arterial infusion chemotherapy `New FP` for advanced hepatocellular carcinoma with major macrovascular invasion treated with sorafenib. APASL Single Topic Conference on HCC Yokohama Japan. Yokohama, Japan. 2018/5/11
141. Nomiya M, Iwamoto H, Niizeki T, Nakano M, Aino H, Shimose S, Shirono T, Okamura S, Noda Y, Kuwano T, Koga H, Torimura T. Multicenter retrospective study on hepatic arterial infusion chemotherapy New FP for advanced hepatocellular carcinoma with major macrovascular invasion. APASL Single Topic Conference on HCC Yokohama Japan. Yokohama, Japan. 2018/5/11
142. 伏見 崇、佐々木優、板野晋也、向坂健秀、重藤宏太、宮原健輔、前川隆一郎、鳥村拓司. 非アルコール性脂肪肝炎(NASH)患者に食事療法と栄養指導が重要と考えられた症例. 第 321 回日本内科学会九州地方会. 久留米市. 2018/5/19
143. 久賀征一郎、緒方 啓、杉山 元、堀まいさ、有永照子、鳥村拓司. 原発性胆汁性胆管炎の経過中に自己免疫性肝炎の併発を認めステロイドが奏功した 1 例. 第 111 回日本消化器病学会九州支部例会、第 105 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 北九州市. 2018/6/8
144. 牛嶋珠里、佐々木望、増田 裕、吉武めぐみ、高木浩史、松隈則人、鳥村拓司. 術後 11 年で再発を認めた肝血管筋脂肪腫の一例. 第 111 回日本消化器病学会九州支部例会、第 105 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 北九州市. 2018/6/8
145. 高城翔太郎、新関 敬、相野 一、岩本英希、下瀬茂男、城野智毅、佐谷 学、中野聖人、岡村修祐、野田 悠、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司. 右心房内腫瘍栓、門脈腫瘍栓を伴う肝細胞癌に対して肝動注化学療法(New-FP)と放射線治療の併用療法が奏効した一例. 第 111 回日本消化器病学会九州支部例会、第 105 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 北九州市. 2018/6/8
146. 川崎修平、相野 一、新関 敬、岩本英希、下瀬茂男、城野智毅、佐谷 学、中野聖人、岡村修祐、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司. 胆道出血および閉塞性黄疸を伴う胆管内腫瘍塞栓を形成した肝細胞癌に対して経乳頭の胆道ドレナージを行いながら New FP 療法を施行し CR とな

- った一例. 第 111 回日本消化器病学会九州支部例会、第 105 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 北九州市. 2018/6/8
147. 前田高暢、城野智毅、新関 敬、下瀬茂男、岩本英希、相野 一、古賀浩徳、鳥村拓司. 経皮的ラジオ波焼灼療法(PRFA)後、急速に多発する門脈腫瘍塞栓再発を認め、NewFP 療法が奏効した一例. 第 111 回日本消化器病学会九州支部例会、第 105 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 北九州市. 2018/6/8
148. 岩本英希、新関 敬、永松洋明、山口泰三、古賀浩徳、鳥村拓司. シンポジウム(2)肝癌治療の最新の試み. 高度脈管侵襲を有する Stage IVa 進行肝細胞癌に対する肝動注化学療法 New FP 療法の治療成績の多施設後ろ向き研究. 第 111 回日本消化器病学会九州支部例会、第 105 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 北九州市. 2018/6/8
149. 新関 敬、相野 一、岩本英希、下瀬茂男、城野智毅、古賀浩徳、鳥村拓司. シンポジウム(2). 肝癌治療の最新の試み. 分子標的治療薬の時代における New FP 療法の役割を考える. 第 111 回日本消化器病学会九州支部例会、第 105 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 北九州市. 2018/6/8
150. ○川口俊弘、井出達也、佐野有哉、天野恵介、桑原礼一郎、有永照子、鳥村拓司. シンポジウム(5). C 型肝炎治療後の問題点. C 型慢性肝疾患での DAA 治療後の発癌率、IFN-base 治療後の病理学的検討. 第 111 回日本消化器病学会九州支部例会、第 105 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 北九州市. 2018/6/8
151. 桑野 徹、岩本英希、新関 敬、中野聖士、相野 一、下瀬茂男、城野智毅、田中正俊、古賀浩徳、鳥村拓司. 高度脈管侵襲を有する進行肝細胞癌に対するソラフェニブ投与症例における肝動注化学療法 New FP 療法の介入の意義. 第 54 回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2018/6/14
152. 中野聖士、岩本英希、黒松亮子、佐谷 学、新関 敬、相野 一、岡村修佑、下瀬茂男、城野智毅、野田 悠、古賀浩徳、鳥村拓司. 切除不能進行肝細胞癌 18 症例に対するレゴラフェニブ初期使用経験. 第 54 回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2018/6/14
153. ○井出達也、川口俊弘、鳥村拓司. C 型慢性肝疾患における ELF スコアの有用性 DAA 治療前後の推移と肝癌との関連に関する検討一. 第 54 回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2018/6/14
154. 中野 暖、川口 巧、岩本英希、古賀浩徳、鳥村拓司. SGLT2 阻害剤がヒト肝癌細胞株の増殖と代謝におよぼす影響. 第 54 回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2018/6/14
155. 有永照子、井出達也、桑原礼一郎、天野恵介、川口俊弘、佐野有哉、鳥村拓司. 自己免疫性肝炎に対するアザチオプリン治療の功罪. 第 54 回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2018/6/14
156. 下瀬茂男、古賀浩徳、鳥村拓司. BCLC stage B の肝細胞癌における予後改善を目指した肝動脈化学塞栓療法. 第 54 回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2018/6/14
157. 野見山美香、岩本英希、新関 敬、永松洋明、相野 一、下瀬茂男、城野智毅、桑野 徹、山口泰三、田中正俊、古賀浩徳、鳥村拓司. 高度脈管侵襲を有する Stage IVa 進行肝細胞癌に対する肝動注化学療法 New FP 療法の治療成績の多施設後ろ向き研究. 第 54 回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2018/6/14
158. 岩本英希、安倍満彦、鳥村拓司. 癌周囲の高脂肪環境は癌のエネルギー代謝のリプログラミングを介し、血管新生阻害剤耐性を産み出す. 第 54 回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2018/6/14
159. 川口 巧、中野 暖、鳥村拓司. シンポジウム(4) 肝疾患におけるサルコペニアの診断と治療. 肝疾患におけるサルコペニア:判定基準の比較と運動療法の効果. 第 54 回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2018/6/14
160. 川口 巧、中野 暖、鳥村拓司. ポスターセッション. 肝硬変の成因別実態. 肝硬変の実態調査:成因別特徴と肝癌危険因子の解析. 第 54 回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2018/6/14
161. ○川口俊弘、井出達也、鳥村拓司. ワークショップ(11)肝炎ウイルスの制御が肝癌診療に及ぼす影響. C 型肝炎での抗ウイルス治療後の発癌の臨床, 病理学的検討. 第 54 回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2018/6/14
162. 中野聖士、田中正俊、黒松亮子、佐谷 学、新

- 関 敬、相野 一、岡村修祐、岩本英希、下瀬茂男、城野智毅、野田 悠、古賀浩徳、鳥村拓司。シンポジウム(1)肝癌における分子標的治療薬の新たな治療展開。進行肝細胞癌に対するソラフェニブ治療後のセカンドライン(既存の追加治療とレゴラフェニブ治療との比較)。第 54 回日本肝癌研究会。久留米市。2018/6/28
163. 井出達也、黒松亮子、有永照子、桑原礼一郎、天野恵介、佐野有哉、鳥村拓司。シンポジウム(2) 肝炎ウイルス制御後発癌の実体と対応策。C 型肝炎患者での DAA 治療 SVR 例の発癌についての検討。第 54 回日本肝癌研究会。久留米市。2018/6/28
164. 広田桂介、川口 巧、神谷俊次、橋田竜騎、松瀬博夫、戸次将史、五島礼博、吉山暉人、大塚貴、野副良介、鳥村拓司、志波直人。肝がん患者における化学療法治療前後の骨格筋量の変化。日本リハビリテーション医学会第 55 回学術集会。福岡市。2018/6/28
165. 神谷俊次、川口 巧、橋田竜騎、戸次将史、松瀬博夫、広田桂介、五島礼博、吉山暉人、大塚 貴、野添良介、志波直人、鳥村拓司。運動療法が肝癌化学療法にともなう骨格筋量減少におよぼす影響。日本リハビリテーション医学会第 55 回学術集会。福岡市。2018/6/28
166. 中村 徹、古賀浩徳、増田篤高、岩本英希、安倍満彦、阪上尊彦、田中俊光、鳥村拓司。シンポジウム(2)形態学を基盤にした肝疾患研究の進歩と臨床応用。末梢血 CD34 細胞を用いた肝硬変に対する臨床応用と新たな治療法の開発。第 50 回日本臨床分子形態学会総会・学術集会。東京。2018/9/7
167. Koga H, Wada F, Sakaue T, Iwamoto H, Abe M, Torimura T. English Oral Session. Claudin-2 activates LKB1-AMPK signals, thereby inducing cell-cycle arrest and autophagy in liver cancer cells. 第 77 回日本癌学会学術総会。大阪。2018/9/27
168. 増田篤高、中村徹、鳥村拓司。ワークショップ(6) 肝硬変モデルマウスにおける galunisertib 投与による肝再生促進・抗線維化作用とその臨床応用の可能性。26th JDDW(第 22 回肝臓学会大会、第 60 回日本消化器病学会大会 合同)。神戸市。2018/11/1
169. 野田 悠、川口 巧、黒松亮子、中野聖士、新関 敬、古賀浩徳、鳥村拓司。非 B 非 C 肝癌の予後因子の検討：HCV 肝癌との比較検討。26th JDDW(第 22 回肝臓学会大会)。神戸。2018/11/1
170. ○本間雄一、井出達也、柴田道彦、日浦政明、阿部慎太郎、岩根伸治、岡田倫明、宮原千賀、江口有一郎、鳥村拓司、原田 大。他施設共同研究での DAA 既治療例に対する再治療成績と SVR に寄与する因子の検討。26th JDDW(第 22 回肝臓学会大会)。神戸。2018/11/1
171. 中野 暖、川口 巧、岩本英希、古賀浩徳、鳥村拓司。SGLT2 阻害剤がヒト肝癌細胞の代謝と増殖におよぼす影響。26th JDDW(第 22 回肝臓学会大会)。神戸。2018/11/1
172. 岩本英希、古賀浩徳、鳥村拓司。肝細胞癌に対する血管新生阻害剤の正常臓器血管への影響と癌血管特異的遺伝子の探索。26th JDDW(第 22 回肝臓学会大会)。神戸。2018/11/1
173. 下瀬茂男、新関 敬、岩本英希、城野智毅、相野 一、田中正俊、古賀浩徳、鳥村拓司。肝動脈化学塞栓術における予後因子の検討。26th JDDW(第 22 回肝臓学会大会)。神戸市。2018/11/1
174. 城野智毅、新関 敬、下瀬茂男、岩本英希、相野 一、古賀浩徳、鳥村拓司。Efficacy and safety of Balloon-Occluded Transarterial Chemoembolization(B-TACE)for hepatocellular carcinoma. 26th JDDW(第 22 回肝臓学会大会)。神戸市。2018/11/1
175. 中村 徹、増田篤高、鳥村拓司。ワークショップ(2)肝硬変患者に対する自家末梢血 CD34+細胞移植による長期予後と QOL 改善を目指した肝硬変治療開発。26th JDDW(第 22 回日本肝臓学会大会、第 60 回日本消化器病学会大会 合同)。神戸市。2018/11/1
176. 有永照子、井出達也、鳥村拓司。ワークショップ(8)血清 IgG 値の推移による自己免疫性肝炎の再熱予測。26th JDDW(第 22 回日本肝臓学会大会、第 60 回日本消化器病学会大会 合同)。神戸市。2018/11/1
177. 川口 巧、猪口哲彰、鳥村拓司。ワークショップ(17)内科疾患における肝繊維化高値に関わる要因：Community-based survey に基づく探索的検討。26th JDDW(第 22 回日本肝臓学会大会、第 60 回日本消化器病学会大会、第 16 回日本消化器外科学会大会 合同)。神戸市。2018/11/1

178. 天野恵介、井出達也、鳥村拓司. ワークショップ (7)核酸アナログ長期投与例における肝発癌時の臨床および肝病理組織学的検討. 26th JDDW(第 22 回日本肝臓学会大会、第 60 回日本消化器病学会大会、第 16 回日本消化器外科学会大会 合同). 神戸市. 2018/11/1
179. ○黒松亮子、中野聖士、佐谷 学、岡村修祐、野田 悠、新関 敬、古賀浩徳、鳥村拓司. 長期生存例からみた初発肝癌治療後の長期生存の予測. 26th JDDW(第 22 回日本肝臓学会大会). 神戸市. 2018/11/1
180. Masuda A, Nakamura T, Abe M, Iwamoto H, Sakaue T, Tanaka T, Koga H and Torimura T. Promotion of Liver Regeneration/Anti-Fibrotic Effects of TGF- β Receptor Kinase Inhibitor Galunisertib in CCl4-Treated Mice and the Possibility for Clinical Application. The 69th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). San Francisco, USA. 2018/11/9
181. Noda Y, Kawaguchi T, Korenaga M, Yoshio S, Komukai S, Nakano M, Niizeki T, Koga H, Kawaguchi A, Kanto T and Torimura T. A Prognostic Impact of an Activator of Tumor Associated Macrophages, Interleukin-34, in Patients with Non-Viral Hepatocellular Carcinoma: A Data-Mining Analysis. The 69th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). San Francisco, USA. 2018/11/9
182. Noda Y, Kawaguchi T, Kuromatsu R, Komukai S, Nakano M, Niizeki T, Koga H, Kawaguchi A and Torimura T. Data-Mining Analysis for Prognosis of Patients with Non-Viral Hepatocellular Carcinoma: A Comparative Study with Hepatitis C Virus Related Hepatocellular Carcinoma. The 69th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). San Francisco, USA. 2018/11/9
183. Torimura T, Niizeki T, Nakano M, Shimose S, Shirono T, Iwamoto H and Koga H. Elderly Patients with Advanced Hepatocellular Carcinoma Could be Effectively Treated without Age-Related Adverse Events. The 69th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). San Francisco, USA. 2018/11/9
184. Shirono T, Iwamoto H, Niizeki T, Shimose S, Koga H and Torimura T. Epirubicin Is More Effective Than Miriplatin in Balloon-Occluded Transcatheter Arterial Chemoembolization for Hepatocellular Carcinoma . The 69th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). San Francisco, USA. 2018/11/9
185. Abe M, Koga H, Tanaka T, Sakaue T, Masuda A, Iwamoto H, Nakamura T, Yano H and Torimura T. Proteomic Discovery of Brain-Derived Neurotrophic Factor in Serum and Bile Ducts in Cholestasis. The 69th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). San Francisco, USA. 2018/11/9
186. Iwamoto H, Abe M, Koga H, Cao Y and Torimura T. Fatty Liver Environment Confers Antiangiogenic Drug Resistance to Hepatocellular Carcinoma and Metastatic Liver Cancer of Colorectal Cancer through Activation of Lipid Dependent Metabolic Pathway. The 69th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). San Francisco, USA. 2018/11/9
187. Reiichiro Kuwahara, Neil D and Takuji Torimura. Identification of Hepatic Stem Cell Niche By Label Retaining Cell Assay in Fetal and Neonatal Mice. The 69th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). San Francisco, USA. 2018/11/9
188. Kawaguchi T, Koya S, Hashida R, Hirota K, Bekki M, Goto E, Yamada M, Sugimoto M, Hayashi S, Goshima N, Yoshiyama T, Otsuka T, Nozoe R, Nagamatsu A, Nakano D, Shirono T, Shimose S, Iwamoto H, Niizeki T, Matsuse H, Koga H, Miura H, Shiba N and Torimura T. In-Hospital Exercise Prevented Sarcopenia in Hepatoma Patients with Chronic Liver Disease Who Underwent Transcatheter Arterial Chemoembolization. The 69th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). San Francisco, USA. 2018/11/9
189. Hashida R, Kawaguchi T, Goshima N, Yoshiyama T, Otsuka T, Bekki M, Koya S, Hirota K, Niizeki T, Sakai M, Matsuse H, Shiba N and Torimura T. An Impact of Cancer Rehabilitation for Prognosis of Patients with Hepatocellular Carcinoma. The 69th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). San Francisco, USA. 2018/11/9
190. Kawaguchi T, Nakano D, Koga H and Torimura T. Effects of a DPP4 Inhibitor on Progression of Nash-Related Hepatoma and DNA Synthesis Pathway Via p62/Keap1/Nrf2 in a Mouse Model: A Metabolomic Analysis. The 69th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). San Francisco, USA. 2018/11/9
191. Kawaguchi T, Nakano D, Iwamoto H, Hayakawa M, Koga H and Torimura T. SGLT2 Inhibitor Altered Metabolic Reprograming and Suppressed Proliferation of Hepatocellular Carcinoma: A Metabolomic Analysis. The 69th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). San Francisco, USA.

- 2018/11/9
192. Torimura T, Iwamoto H, Masuda A, Abe M, Suzuki H, Nakamura T, Sakaue T, Tanaka T, Yamamoto K, Yano H and Koga H. DNA Methylation Level of 10 CpG Sites on 8 Specific Genes in Non-Cancerous Liver Tissues Is Useful to Predict Multicentric Recurrence of Hepatocellular Carcinoma after Surgical Resection. The 69th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). San Francisco, USA. 2018/11/9
193. Nishina S, Sasaki K, Hara K, Kawaguchi T, Torimura T, Hino K. Dipeptidyl Peptidase 4 Inhibitors Reduce the Progression of Hepatocellular Carcinoma By Activating T Cell and Natural Killer Cell Chemotaxis in Mice. The 69th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). San Francisco, USA. 2018/11/9
194. Koga H, Imamura Y, Wada F, Abe M, Iwamoto H, Nakamura T, Sakaue T, Masuda A, Tanaka T, Yano H and Torimura T. Claudin-2 Activates LKB1-AMPK Signals, Thereby Inducing Cell-Cycle Arrest and Autophagy in Liver Cancer Cells. The 69th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). San Francisco, USA. 2018/11/9
195. Hashida R, Kawaguchi T, Otsuka T, Goshima N, Yoshiyama T, Bekki M, Iwanaga S, Sugimoto T, Koya S, Hirota K, Matsuse H, Torimura T and Shiba N. Hybrid Training Using Electrically Stimulation to Antagonistic Muscle Improved Insulin Resistance with Alterations in Myokine and Hepatokine in Patients with NAFLD: A Pilot Study. The 69th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). San Francisco, USA. 2018/11/9
196. Iwamoto H, Niizeki T, Nagamatsu H, Shimose S, Shirono T, Tanaka M, Yamaguchi T, Koga H and Torimura T. Multicenter Retrospective Study of New FP, a Novel Regimens of Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy for Advanced Hepatocellular Carcinoma with Major Macrovascular Invasion. The 69th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). San Francisco, USA. 2018/11/9
197. Nakamura T, Koga H, Masuda A, Iwamoto H, Abe M, Sakaue T, Tanaka T and Torimura T. Parallel 28 (Oral Sessions): Cellular Biology in Liver Transplantation. Transplantation of Human Ips Cell-Derived Hepatocyte-like Cells and Endothelial Cells with Peptide Hydrogel Decreases Hepatic Fibrosis in Mice with Chronic Liver Fibrosis. The 69th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). San Francisco, USA. 2018/11/9
198. ○緒方 啓、杉山 元、堀 まいさ、板野晋也、佐野有哉、井出達也、鳥村拓司. P32 欠失を認めなかったグレカプレビル・ピブレンタスビル (GLE・PIB)併用療法無効の C 型慢性肝炎の 1 例. 第 112 回日本消化器病学会九州支部例会 第 106 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 鹿児島市. 2018/11/9
199. 増田篤高、中村 徹、鳥村拓司. TGFβ 阻害剤”galunisertib”の抗線維化と肝再生促進作用. 第 32 回肝類洞壁細胞研究会学術集会. 東京. 2018/12/1
200. 岩本英希、古賀浩徳、鳥村拓司. シンポジウム(5) 次世代シーケンサを用いたゲノム解析による肝疾患研究. 非癌部肝組織の DNA メチル化の変化は肝細胞癌の多中心性発生のバイオマーカーになり得る. 第 42 回日本肝臓学会東部会. 東京. 2018/12/7
201. 安倍満彦、古賀浩徳、鳥村拓司. 胆管上皮細胞に高発現する脳由来神経栄養因子(BDNF)の機能解析. 第 4 回 G-PLUS (旧称：浜名湖シンポジウム). 東京. 2018/12/15
202. 川口 巧、中野 暖、居石哲治、鳥村拓司. イソマルツロースが NAFLD 患者のインスリン抵抗性と代謝におよぼす影響：メタボローム解析. 第 22 回日本病態栄養学会年次学術集会. 横浜市. 2019/1/11
203. 池田真由美、高柳理沙、永松あゆ、丸山奈津実、川口 巧、居石哲治、田尻祐司、野村政壽、鳥村拓司、多賀百香、田中芳明. 非 B 非 C 肝がん患者の食習慣の特徴. 第 22 回日本病態栄養学会年次学術集会. 横浜市. 2019/1/11

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

